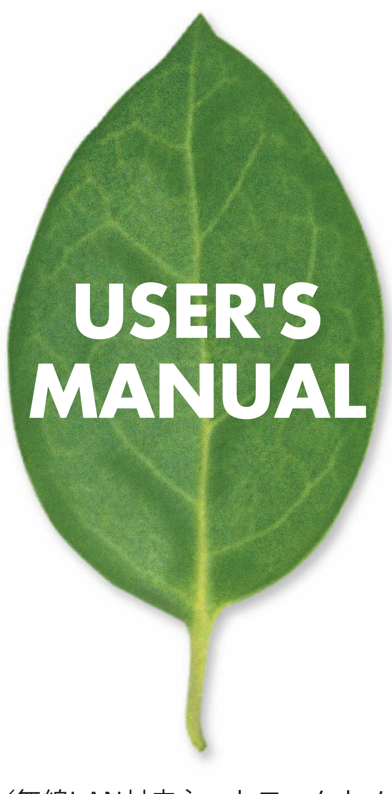


USER'S MANUAL

有線／無線LAN対応ネットワークカメラ

CS-WMV01G

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

使用前に必ずお読みください

■本書の目的

本製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本書は、本製品を正しくお使いいただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管していただきますようお願いいたします。

■ご注意

・ 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、停電・落雷などの外的要因、第3者による妨害行為などの要因によって、通信機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
・ 通信内容や保持情報の漏洩、改竄、破壊などによる経済的・精神的損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
・ ハードウェア、ソフトウェア、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
・ 本製品内部のソフトウェア（ファームウエア）更新ファイル公開を通じた修正や機能追加は、お客様サービスの一環として随時提供しているものです。内容や提供時期に関しての保証は一切ありません。
・ 輸送費、設定、調整、設置工事などは、お客様負担となります。
・ 本製品は日本国内仕様であるため、別途定める保証規定は日本国内でのみ有効です。

■著作権等

・ 本書の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、本書の記述に誤りや欠落があった場合もプラネックスコミュニケーションズ株式会社はいかなる責任も負わないものとします。
・ 本書の記述に関する、不明な点や誤りなどお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
・ 本書および記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

●マニュアル内の表記について
本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

●記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

本製品を安全にご利用いただくために

⚠警告

本製品のご利用に際して、以下の警告および注意をご覧いただき必ずお守りください。これらの事項が守られないとき、**「感電」「火災」「故障」**などが発生する場合があります。
これによって本製品を利用される方が負傷されたり死亡につながる恐れがあります。また、万一**「発火」「発煙」「溶解」**などが発生した場合には速やかに本製品の利用を中止し、弊社サポートセンターへ連絡するようお願いいたします。

■ 無線機器に関して

・心臓ペースメーカーや補聴器などの医療機器を使用されている近くで本製品をご利用にならないでください。
これは心臓ペースメーカーや補聴器などの医療機器を使用されている方と近接することで、万一にでもそれらの機器に影響を与えることを防ぐためです。

・医療機関内でのご利用は各医療機関の案内および指示にしたがってください。
本製品の電波出力は規定に沿ったもので、各医療機器への影響は少ないですが、前述の心臓ペースメーカーなどへの影響の可能性もあるため、ご利用に関しては各医療機関の案内および指示にしたがってください。詳しくは各医療機関へお問い合わせください。

・交通機関内でのご利用は各交通機関の案内および指示にしたがってください。
特に各航空会社については、航空機の飛行状況などによって、機内での電子機器や無線機器の利用を禁止しています。航空機の装置などへ影響を与えて事故の原因となる恐れがあるため、本製品は機内でご利用にならないでください。詳しくは各交通機関へお問い合わせください。

・電子レンジの近くで本製品をご利用にならないでください。
電子レンジを使用するとき、電磁波の影響によって無線通信が妨害される恐れがあります。このため電子レンジの近くで本製品をご利用にならないでください。これは電磁妨害によって本製品の通信が途絶えたり速度が遅くなったりなどの動作が不安定になるのを防ぐためです。

■ 設置及び保管に関して

・動作環境範囲外で本製品をご利用にならないでください。
範囲外の温度や湿度の環境でご利用になることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・直射日光の当たる場所や暖房器具の近くで本製品をご利用にならないでください。
本製品が加熱することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・温度変化の激しい場所で本製品をご利用にならないでください。
動作範囲内の温度であっても温度変化が激しい場所でご利用することで、結露などが原因で感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・本製品の近くに液体が入った容器を置かないでください。
本製品に液体がこぼれることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・コンピュータの取り付け口に異物などが混入しているときは取り除いてください。
コンピュータの取り付け口に異物が混入した状態で本製品を取り付けることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・本製品を分解、改造しないでください。
本製品を分解または改造することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。また改造は法律で禁止されています。

■ 電波に関して

・本製品の無線LANの周波数帯は、医療機器、電子レンジなどの産業・科学機器や工場の生産ラインなどで使用される移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局と重複しているため、電波の干渉による無線通信の障害が発生する恐れがあります。
本製品のご利用の前に、干渉範囲内に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局が運用されていないことを確認してください。

・万一、本製品使用中に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波の干渉が発生したときは、速やかに周波数を変更するか使用を中止してください。

・その他、本製品から移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波干渉など何かお困りのことが発生したときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

2.4 DSOF 4

■ 取り扱いに関して

・高温に注意してください。
本製品の使用中は高温になっている恐れがあります。不用意に触ると火傷の恐れがあります。

・湿気やほこりの多いところに保管しないでください。
湿気やほこりの多いところに保管することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・本製品を重ねて設置しないでください。
本製品を重ねて設置することで製品が加熱し、感電、火災などの発生、または本製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用にならないでください。
振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用になることで、本製品の落下、誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・静電気に注意してください。
本製品は精密機器です。静電気の影響によって、製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。本製品を取り付ける際は、コネクタや取り付け部分を触れないなどの注意をしてください。

・落下や衝撃に注意してください。
本製品に落下や衝撃を与えることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

■ その他

・本製品は日本国内でご利用ください。
本製品は日本の国内法のもとで利用可能な製品です。海外での利用はできません。また、本製品ご利用の際は各地域の法令や政令などによって利用の禁止や制限がなされていないかご確認してください。

・ご利用のコンピュータのデータのバックアップを取得してください。
本製品のご利用にかかわらず、コンピュータのデータのバックアップを定期的に取得してください。万一不測の事態が発生し不用意なデータの消失や復旧が不可能な状態に陥ったとき回避策になります。なお、本製品のご利用に際しデータ消失などの障害が発生しても、弊社では保証いたしかねることをあらかじめご了承ください。

■無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利〈プライバシー保護〉に関する重要な事項です！）

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りをおこなうため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定をおこっていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

・通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワード又はクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
・不正に侵入される
悪意ある第三者が無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）、特定の人物になりすまして通信し不正な情報を流す（なりすまし）、傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）、コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定をおこなって製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。
無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがっておこなってください。
なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。
セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

セキュリティ対策を施さず、あるいは無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
弊社では、お客様がセキュリティの設定をおこなわないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定をおこない、製品を使用することをお奨めします。

目次

第1章 はじめに

1.概要

本製品はイーサネットおよび無線LANに接続できるパン/チルト対応のネットワークカメラです。

本製品はコンピュータに取り付けるWEBカメラとは異なり、内蔵のCPUによる独立したシステムを使用し、コストパフォーマンスをはかったうえで、高品質なビデオ映像を送信、監視することができます。本製品はネットワークに接続されたコンピュータからインターネットやイントラネットを経由してリモート管理できます。また、簡単インストール手順とWEBベースの設定画面は容易にネットワークと連携し、コスト的に効率良いビデオモニタリングが構築できます。

2.製品の特徴

・強力なCPUを内蔵

ハイ・パフォーマンスを提供する、次世代のオーディオ/ビデオ機器に設計されたCPUを使用。

・カンタン設定・モニタリング

各設定はWEBブラウザ上からおこないます。付属のIP設定ユーティリティCS IP-MasterによりカメラのIPアドレス自動検索をおこない、使い勝手の良さを重視しています。

・ネットワークへの接続は簡単かつフレキシブル

本製品をハブ/ルータ/無線AP/無線ルータに接続することで社内LAN、家庭LAN、外部のネットワークからカメラの映像がみられます。

・高速パン/チルト対応

コンピュータのWEBブラウザを使って、カメラを水平方向(パン)270度、垂直方向(チルト)135度動かせ、広範囲をモニタリングできます。あらかじめプリセットポジション(20ヶ所まで)を設定すれば、簡単に目的の個所に移動することもできます。

・ビデオ/オーディオ同時通信、内蔵マイク

最新の動画圧縮方式MPEG-4を採用し、必要最低限の帯域幅を満たす環境でも高品質の映像をお楽しみいただけます。しかも、音声配信にも対応。内蔵・外部マイクを選択できますのでビデオ/オーディオを両方とも楽しめます。

・動体検知、外部センサーアラーム

高度な動体検知機能のほか、外部アラームトリガー用のコネクタを装備しています。動体検知や外部トリガー検知するとスナップショット付のメールを送信したり、ネットワーク上のサーバへスナップショットを転送したり、イベントを追跡できます。

・ユーザ制限によりセキュリティを実装

ユーザパスワードを設定し、カメラへの不信なアクセスを防止します。各ユーザアクセスレベルは、モニタリングのみ、外部端子コントロール、パン/チルトコントロールの権利を、ユーザごとに割り当てられます。

・モニタリング・録画ユーティリティ付

標準で本格的な監視ユーティリティがついています。カメラ16台まで同時モニタリング及び録画、また効率的なデータ検索と再生をおこなうことができます。

・リモコン付

操作に便利なリモコンがついています。「赤外線コントロール」機能をONにし、リモコンで思い通りにカメラを操作できます。

・画像のサイズ、画像品質の調整可能

ご利用のネットワーク環境、用途などによって画像を調整できます。色調、彩度、コントラストまで、細かい設定をおこなえます。

・ダイナミックDNSに対応

本製品はダイナミックDNSのサービスに対応します。
ダイナミックDNSのサービスを利用することで、取得するIPアドレスが動的に変わってもネットワークカメラにアクセスできます。

※2005年10月現在、本製品はDynDNS.org、MyDNS、DynamicDo!に対応します。最新情報は弊社ホームページでご確認ください。

・多数のネットワークプロトコルに対応

HTTP、SMTP、FTP、DNS、DHCPなど、多数のプロトコルをサポートしています。

3.コンピュータ仕様

■本製品をご使用いただくために以下のシステム要件を満たす必要があります。

ネットワーク環境

対応標準　IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX準拠

本製品接続の推奨コンピュータ

対応OS	Microsoft Windows XP/2000/Me/98SE
WEBブラウザ	Internet Explorer 5.5以上
インターフェース	10/100Mbps LAN ポートが装備されていること

CS ME-Watcherのシステム要件

対応OS	Microsoft Windows XP/2000/Me/98SE（XP/2000推奨）
CPU	Intel Pentium 350MHz以上 （Intel Pentium 1GHz以上推奨）
メモリ	128MB以上（256MB以上推奨）
ディスプレイ	解像度1024×768以上、256色以上

4.同梱内容の確認

パッケージから注意して内容物を取り出し、以下の付属品が含まれていることを確認してください。

・CS-WMV01G本体
・アンテナ×2
・ACアダプタ
・リモートコントローラ（電池付）
・AVケーブル
・LANケーブル（ストレート 2m）
・スタンドキット
・レンズふき
・CS-WMV01G CD-ROM
・らくらく！かんたん設定ガイド
・安全に関する説明書
・保証書

付属品が足りない、または破損などがあるときは、お手数ですが販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

第2章 各部の名称とはたらき

1.本体前部

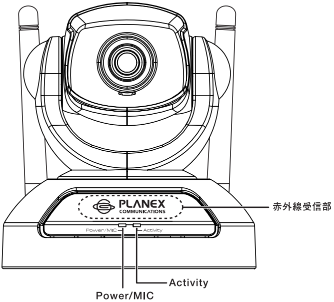


図2-1 CS-WMV01G前部

■LEDランプの動作

Power/MIC	点灯（赤）	電源が入っている状態
	点滅（赤）	外部マイクが接続された状態
	消灯	電源が入っていない状態
Activity	消灯	IPアドレス未取得
	点滅（緑）	IPアドレス取得完了

Power/MICとActivityの点灯設定をOFFにすることができます。
「第8章 5-1 システム」（76ページ）を参照してください。

■LEDにて本製品のステータス確認

電源投入後、本製品は自己診断(POST)テストをおこなってハードウェアの異常の有無を確認します。以下の表は、通常動作時のLEDの動作パターンを示しています。LEDが別のパターンで点滅するときは、致命的なエラーが発生している可能性があります。

状態	LED 点灯/点滅状態
電源投入後、 自己診断実行中	Power/MIC LED(赤)と Activity LED(緑)が交互に点滅
イーサネット信号または 他の無線機器が検出できない	イーサネット信号または無線LAN機器を 検出するまでPower/MIC LED(赤)が点灯
ネットワーク設定前	IPアドレスが確認できるまで Activity LED(緑)が点灯
ネットワーク設定後	Activity LED(緑)が毎秒点滅
ハードウェア上の障害を検出	他のパターン

●注意

Activity LEDが点灯または点滅しないときは、LANケーブルが抜けていないか、またはLANケーブルのタイプ「第3章 2.LANケーブルの取り付け」(27ページ)を確認してください。

無線LANで接続したときは、本製品を一度初期化してからもう一度無線LAN設定をしてください。

2.本体後部

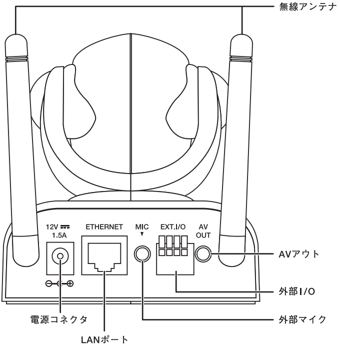


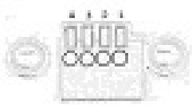
図2-2 CS-WMV01G 後部

電源コネクタ	付属のACアダプタを接続するための電源コネクタ
LANポート	10/100BASE-TX用LANケーブル（カテゴリ5）のRJ-45ポート
外部マイク	外部マイクを接続するためのコネクタ
外部I/O	センサーなど外部機器を接続するためのコネクタ（外部接続端子の仕様 19ページ）
AVアウト	外部のオーディオ/ビデオ機器を接続するためのコネクタ
無線アンテナ	無線を使用するためのコネクタ

■外部接続端子の仕様

本製品の外部端子は、デジタル入力×1を装備した一般端子ブロックおよび、機器制御用のリレースイッチを提供します。外部端子はセンサーなど市販の外部機器の接続に使用されます。
外部機器を接続した場合、「アプリケーション」設定ページで「トリガー条件」を設定し、トリガー条件が検知されたらアラーム発生、スナップショット送信をおこなうことができます。

ピン1および2は外部センサの接続用であり、電圧は初期状態で「低」となっています。ピン3および4のリレースイッチは外部機器のオン・オフ用として使用します。



ピン	名称	機能説明
1	DI +	デジタル入力 最大 50mA, 12VDC
2	DI -	デジタル入力 入力電圧の初期状態:低
3	SW_COMMON	デジタル出力 初期状態においてSW_OPEN からオープン デジタル出力をONにした時点でSW_OPENにてクローズ
4	SW_NOPEN	デジタル出力 最大 1A, 24VDC、または0.5A, 125VAC

外部機器の正しいインストール方法については、外部機器の販売元にご確認ください。

3.本体側面

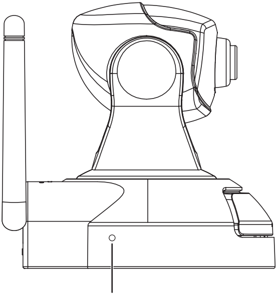


図2-3 CS-WMV01G 側面

リセットボタンは、本製品を再起動するときと、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻すときに使います。（細い棒を使って押してください）

■再起動

リセットボタンを一回押します。Power/MICとActivity LEDが両方点灯してから数回点滅します。Power/MIC LEDが点灯(赤)、Activity LED が点滅(緑)状態に戻ったら再起動完了となります。

■工場出荷時設定に戻す

パスワードを忘れたり、変更した設定を元に戻したいときは、本製品を初期設定状態に戻すことができます。

3-1.リセットボタンを自己診断（POST）が始まるまで押したままにします。

3-2.Power/MICとActivity LEDが両方点灯してから、交互に点滅します（自己診断1回目）。
この間、リセットボタンは押したままにします。

3-3.Power/MICとActivity LEDが再度、両方点灯（自己診断2回目）したら、同時にリセットボタンを離します。

診断が終了すると、Power/MIC LEDは点灯（赤）します。ネットワークに接続すると、Activity LEDが点滅（緑）します。

●注意

・工場出荷時の設定に戻すときは、本体の電源をオフにしないでください。
・工場出荷時の設定に戻すと、変更した設定はすべて失われます。

4.本体底面

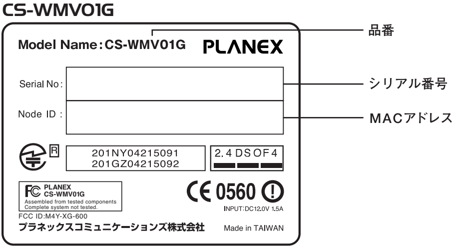


図2-4 CS-WMV01G CEラベル

「品番」（Model Name）
本製品の製品型番です。

「シリアル番号」（Serial No）
本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザー登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受けるときも必要になります。

「MACアドレス」（Node ID）
本製品のMACアドレスです。

5.リモコン

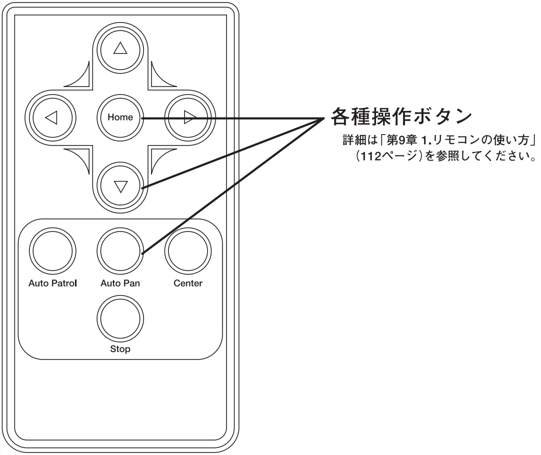


図2-5 リモコン操作面

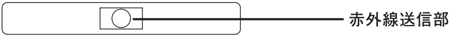


図2-6 リモコン側面

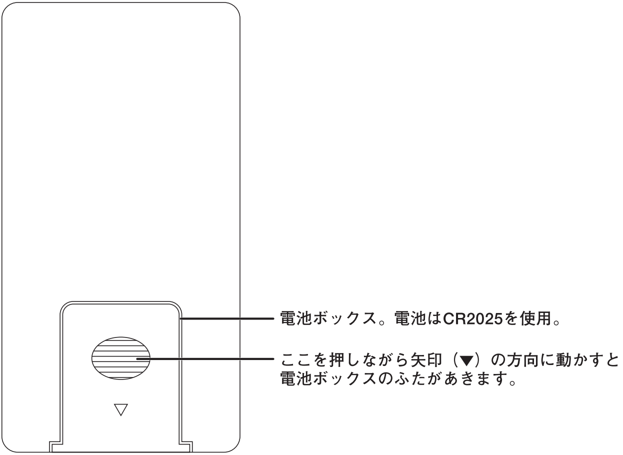


図2-7 リモコン裏面

操作方法は「第9章 1.リモコンの使い方」（112ページ）を参照してください。

第3章 ハードウエアの設置と接続

1.設置場所について

本製品を設置するときは以下の点をお守りください。

・湿気の多い場所には設置しない。
・チリやほこりの多い場所には設置しない。
・直射日光の当たる場所や温度の高い場所には設置しない。
・設置する周囲の空間を空ける。
・デスクの上など平らな場所へ設置する。

●注意

カメラの稼動部の周囲に障害物などがあると製品が正しく動作しない恐れがあります。障害物があるときは取り除くか設置場所を変えてください。カメラの稼動部に指などをはさまないようお気をつけください。本製品はインターネットに接続できるため、お客様のプライバシーに影響を与える恐れがあります。この問題は多くのインターネット・プログラムに共通したものです。お客様がこの問題を望まないときは、本製品の使用を控えてください。

2. LANケーブルの取り付け

本製品の後部のLANポートにLANケーブルを取り付けます。接続する機器に合わせてLANケーブルの種類を選んでください。

本製品と機器の接続	LANケーブルのタイプ
本製品～コンピュータ	クロスタイプ ※1
本製品～ハブ/スイッチ	ストレートタイプ
本製品～ブロードバンドルータ	ストレートタイプ

※1 同梱されているLANケーブルはストレートタイプです。クロスタイプのLANケーブルは別途ご用意ください。

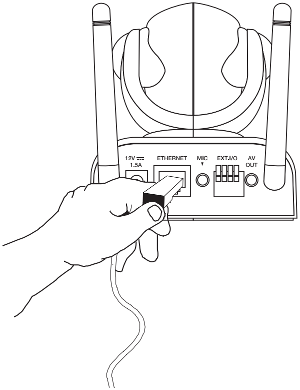


図3-1 LANケーブルの取り付け

3. ACアダプタの取り付け

本製品後部の電源コネクタに付属のACアダプタを取り付けます。ACアダプタをAC100Vコンセントに差し込みます。

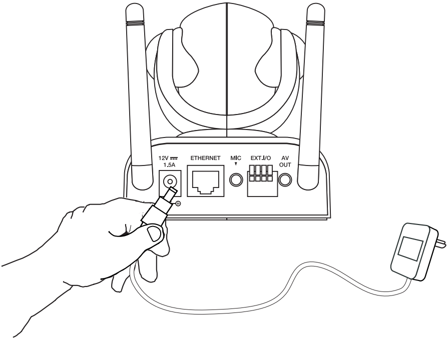


図3-2 ACアダプタの取り付け

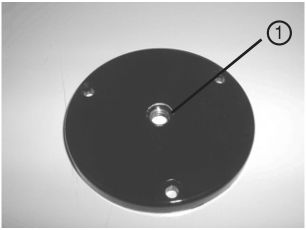
●注意

ACアダプタは必ず付属のものを使用してください。付属以外のACアダプタの使用は、製品の故障、誤動作などの原因となる恐れがあります。付属以外のACアダプタを使用したときの製品動作および故障は、弊社保証の対象外です。

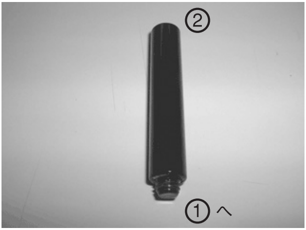
4. 付属スタンドの取り付け

本製品に付属のスタンドを取り付けることで、高さの変更や角度を調整できます。スタンドは部品A、B、Cの3つで構成されます。図を参考にスタンドを組み立ててください。

1. スタンド部品



部品 A



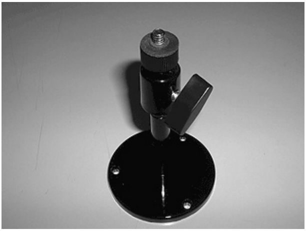
部品 B



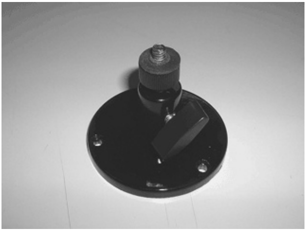
部品 C

2. 完成図

組み立てたスタンドは、本製品底面にあるネジ穴に取り付けます。部品Aには3箇所の穴が開いているので壁や天井にも取り付けできます。



組み立て例 1
部品 Bを使ったとき



組み立て例 2
部品 Bを使わないとき

●*注意*

壁や天井に取り付けるときは、落下しないようにしっかりと取り付けてください。本製品には取り付け用のネジは付属しておりません。スタンドを取り付ける材質にあわせ、別途取り付け用のネジをご用意ください。

3.角度調整

部品Cは角度を調整できます。部品C横のハンドルを緩めて角度調整後、しっかり締め付けます。



部品 C

第4章　ネットワークカメラの活用

1.実用例

●家事をしながら、寝ている赤ちゃんの様子を見ることができます。

●外出先からインターネット経由で、ペットの様子を見ることができます。

●公共の場で、出入口、ロビーに本製品を設置し、混み具合、接客対応など監視できます。

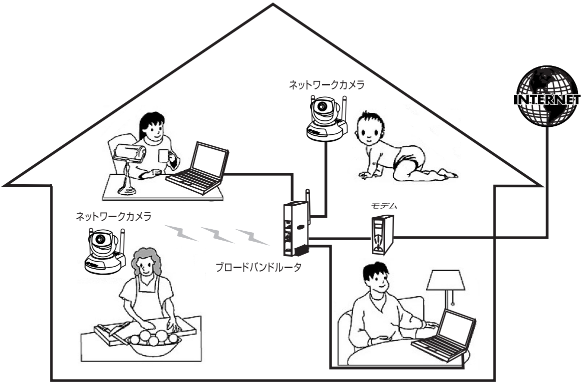
●検証ルームなどで、異常のときに早期対応、事故防止に役立ちます。

●マンションのエントランスに設置し、住居者の安全性を守ることができます。

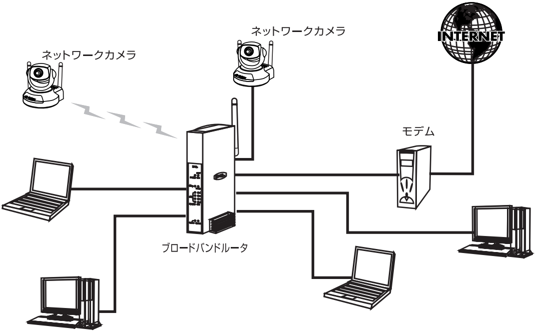
●CS ME-Watcher モニタを使用すれば、ビデオ映像の静止画を取り出すことができます。

●動体検知機能を使用すれば、カメラ映像が被写体の動きを検知したときのアラーム警告とその際に撮影された映像をメール送信することができます。

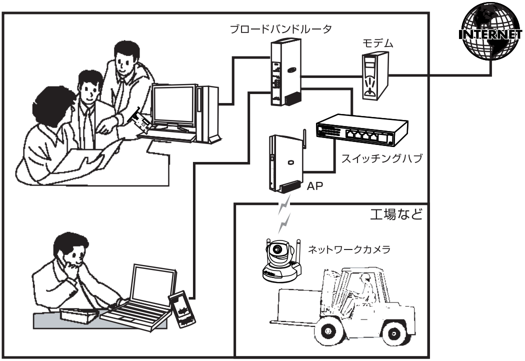
2.ご家庭での利用例



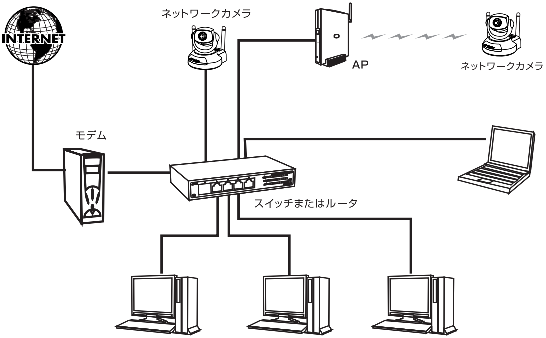
構成事例:



3.SOHOでの利用例



構成事例:



4.接続タイプ

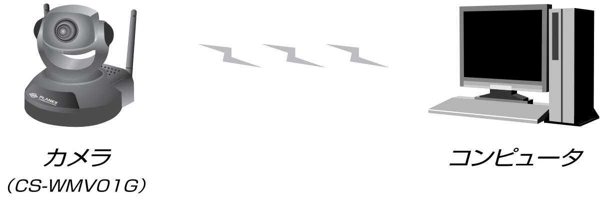
A.ネットワークカメラをコンピュータに直接接続する



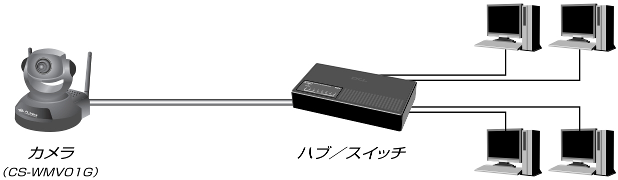
●注意

あらかじめクロスタイプのLANケーブル（カテゴリ5以上）を用意してください。

B.ネットワークカメラをコンピュータに無線LANで接続する



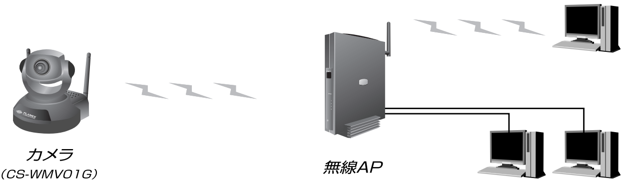
C. ネットワークカメラをハブ/スイッチに接続し、LANカメラとして使う



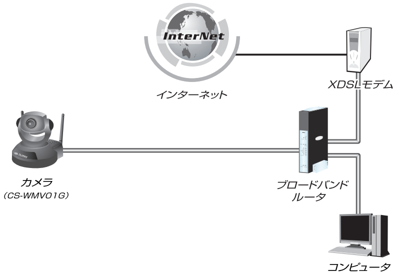
●注意

ストレートタイプのLANケーブルをご利用ください。

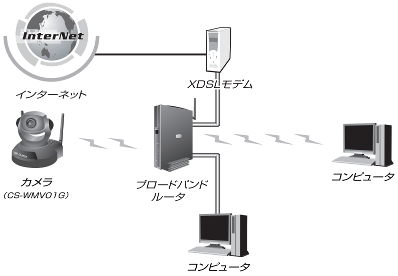
D.ネットワークカメラを無線APに接続し、無線LANカメラとして使う



E.ネットワークカメラをルータ/モデム経由でインターネットに接続する



F.ネットワークカメラを無線ブロードバンドルータ経由でインターネットに接続する



●注意

・ルータ使用のとき

ルータはローカルサーバ機能（DMZ）対応の機種が必要です。

・ケーブルモデム/XDSLモデム使用のとき

本製品はPPPoEをサポートしていません。PPPoE接続をご利用の場合はPPPoE対応のブロードバンドルータが必要です。

第5章 設定用コンピュータの準備

本製品を設定するためのコンピュータの設定について説明します。
DHCPサーバによりIPアドレスを自動的に取得しているときは、
本章の設定は必要ありません。第6章へお進みください。

※本製品の設定は、有線LANで本製品とコンピュータを接続して
　行います。

1.コンピュータの設定

コンピュータの設定について説明します。

Windows XP 編

1-1. コンピュータにLANアダプタがインストールされており、正常に認識されていることを確認します。
LANアダプタがインストールされていないときは、LANアダプタのマニュアルを参照してインストールを行ってください。

1-2.「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。



「コントロールパネル」が表示されます。

1-3. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。



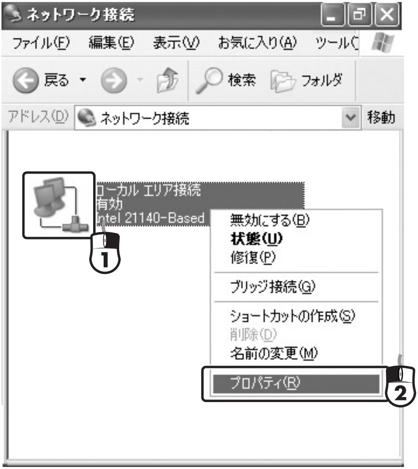
「ネットワークとインターネット接続」が表示されます。

1-4. 「ネットワーク接続」をクリックします。



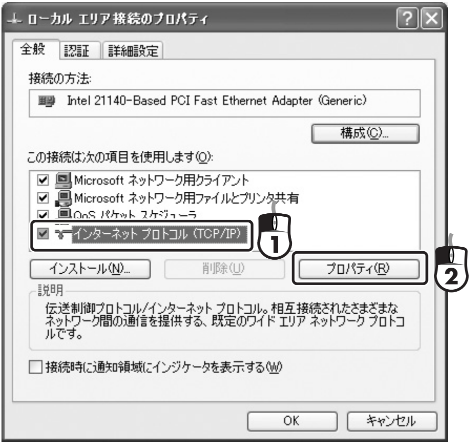
「ネットワーク接続」が表示されます。

1-5. 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。



「ローカルエリア接続のプロパティ」が表示されます。

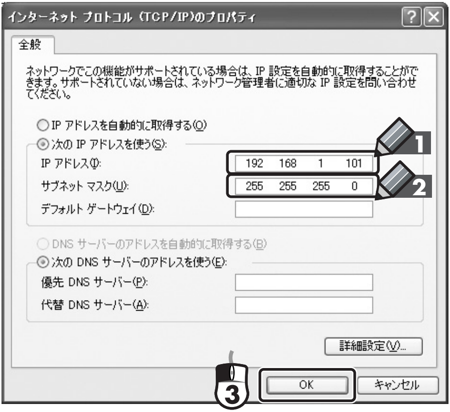
1-6. 「全般」タブをクリックし、「この接続は次の接続を使用します」一覧から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択して、[プロパティ]をクリックします。



「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」が表示されます。

※インターネットプロトコル(TCP/IP)」のチェックボックスがオフのときは、このチェックボックスをクリックしてオンにし、[プロパティ]をクリックします。

1-7.「次のIPアドレスを使う」を選択し、「IPアドレス」に「192.168.1.101」を、「サブネットマスク」に「255.255.255.0」を入力し、[OK]をクリックします。



●チェックポイント

- *CS-WMV01Gは初期設定でIPアドレスに「192.168.1.100」が設定されています。*
- *同じネットワーク上に同じIPアドレスは複数存在できません。IPアドレスの競合メッセージが表示されたときは、IPアドレスを変更してください。*

「ローカルエリア接続のプロパティ」が表示されます。

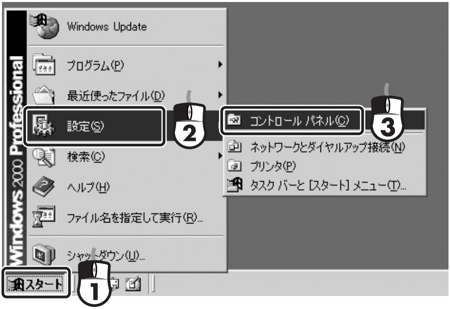
1-8. ［OK］をクリックして、「ローカルエリア接続のプロパティ」を閉じます。



Windows 2000 編

1-9. コンピュータにLANアダプタがインストールされており、正常に認識されていることを確認します。
LANアダプタがインストールされていないときは、LANアダプタのマニュアルを参照してインストールを行ってください。

1-10. 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリックします。



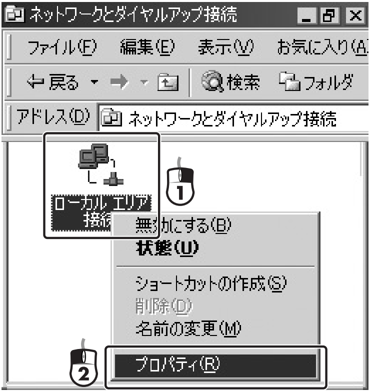
「コントロールパネル」が表示されます。

1-11. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックします。



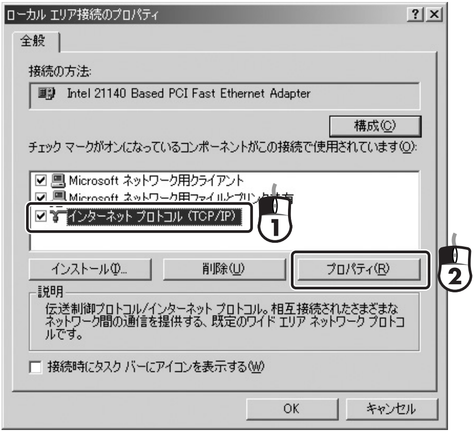
「ネットワークとダイヤルアップ接続」が表示されます。

1-12. 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。



「ローカルエリア接続のプロパティ」が表示されます。

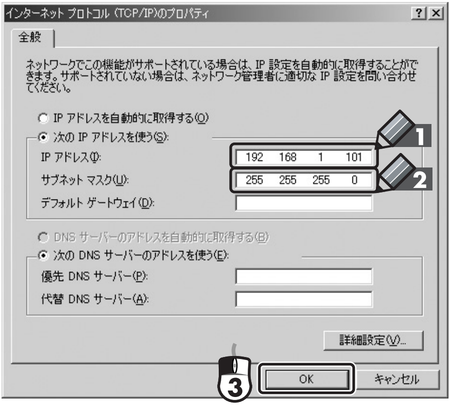
1-13. 「全般」タブをクリックし、「チェックマークがオンになっているコンポーネントがこの接続で使用されています」一覧から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択して[プロパティ]をクリックします。



「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」が表示されます。

※「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が一覧にないときは、「付録C 1 TCP/IPのインストール」(164ページ)を参照して、「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を追加してください。

1-14. 「次のIPアドレスを使う」を選択し、「IPアドレス」に「192.168.1.101」を、「サブネットマスク」に「255.255.255.0」を入力し、[OK]をクリックします。



「ローカルエリア接続のプロパティ」が表示されます。

●チェックポイント

- *CS-WMV01Gは初期設定でIPアドレスに「192.168.1.100」が設定されています。*
- *同じネットワーク上に同じIPアドレスは複数存在できません。IPアドレスの競合メッセージが表示されたときは、IPアドレスを変更してください。*

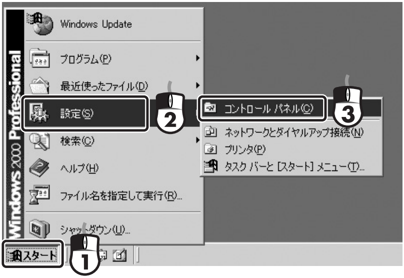
1-15. [OK]をクリックして、「ローカルエリア接続のプロパティ」を閉じます。



Windows Me / 98SE 編

1-16. コンピュータにLANアダプタがインストールされており、正常に認識されていることを確認します。
LANアダプタがインストールされていないときは、LANアダプタのマニュアルを参照してインストールを行ってください。

1-17. 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリックします。



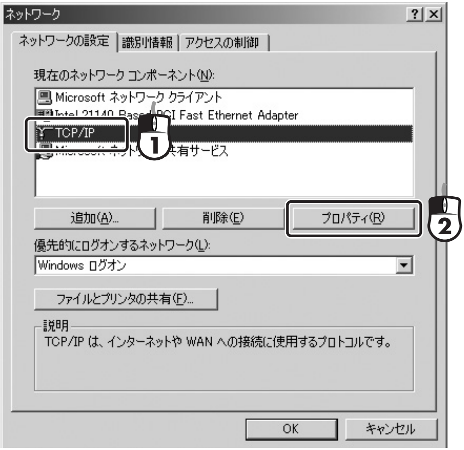
「コントロールパネル」が表示されます。

1-18. 「ネットワーク」をダブルクリックします。



「ネットワーク」が表示されます。

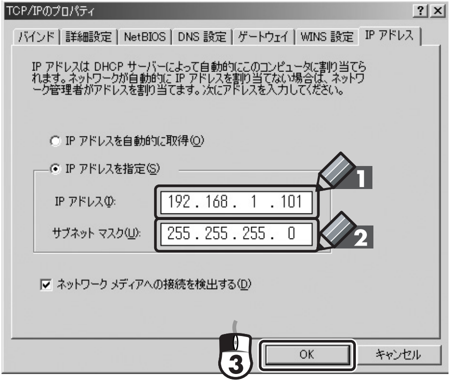
1-19. 「TCP/IP」または、「TCP/IP－＞ご利用のLANアダプタの名称」を選択し、[プロパティ]をクリックします。



「TCP/IPのプロパティ」が表示されます。

※「TCP/IP」が一覧にないときは、「付録C 1 TCP/IPのインストール」(164ページ)を参照して、「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を追加してください。

1-20. 「IPアドレス」タブをクリックし、「IPアドレスを指定」をオンにして、「IPアドレス」に「192.168.1.101」を、「サブネットマスク」に「255.255.255.0」を入力して［OK］をクリックします。

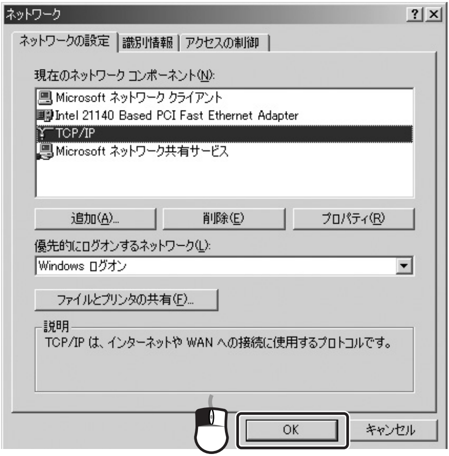


●*チェックポイント*

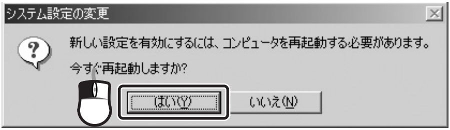
- *CS-WMV01Gは初期設定でIPアドレスに「192.168.1.100」が設定されています。*
- *同じネットワーク上に同じIPアドレスは複数存在できません。IPアドレスの競合メッセージが表示されたときは、IPアドレスを変更してください。*

「ネットワーク」が表示されます。

1-21. ［OK］をクリックして「ネットワーク」を閉じます。



※Windows 98SEでは、コンピュータを再起動する確認メッセージが表示されます。
［はい］をクリックしてコンピュータを再起動します。



その他のOS 編

ご利用のコンピュータまたはOSのマニュアルを参照して、ネットワークプロトコル「TCP/IP」を設定してください。
「IPアドレス」を「192.168.1.101」、サブネットマスクを「255.255.255.0」に設定してください。

●チェックポイント

- *CS-WMV01Gは初期設定でIPアドレスに「192.168.1.100」が設定されています。*
- *同じネットワーク上に同じIPアドレスは複数存在できません。IPアドレスの競合メッセージが表示されたときは、IPアドレスを変更してください。*

第6章 ユーティリティ

「CS ME-Watcher」と「Installation Wizard」の2つのオプションソフトウェアがインストールできます。

■CS ME-Watcherユーティリティ

下記の2種のユーティリティから構成されています。

CS ME-Watcher 再生　：録画した動画を再生するユーティリティ
CS ME-Watcher モニタ：カメラの監視ユーティリティ

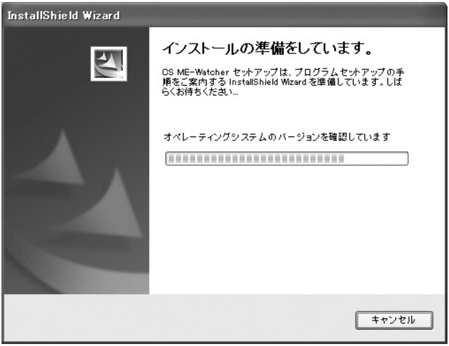
■Installation Wizard

カメラのIPアドレスの検索、ファームウェア更新、初期化などができます。

1. CS ME-Watcherユーティリティの
インストール

※ユーティリティのインストールは、管理者権限のユーザーで実行してください。

1-1. ホームページ掲載のCS ME-Watcherをダウンロードし、Setup.exeをダブルクリックします。自動的に「インストールの準備をしています。」が表示されます。



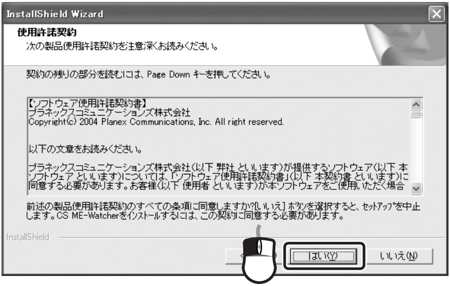
「CS ME-Watcher InstallShieldウィザードへようこそ」が表示されます。

1-2. ［次へ］をクリックします。



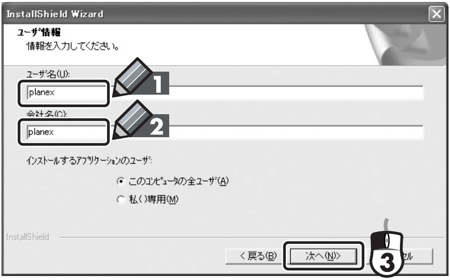
「使用許諾契約」が表示されます。

1-3. 内容を確認し、［はい］をクリックします。



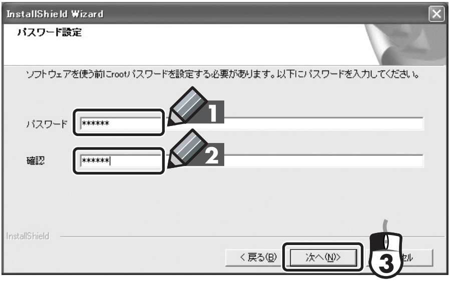
「ユーザ情報」が表示されます。

1-4. 「ユーザ名」、「会社名」を入力し、[次へ]をクリックします。



「パスワード設定」が表示されます。

1-5. 「パスワード」、「確認」のパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



●ワンポイント

- 「パスワード」と「確認」は同じものを入力してください。
- 「CS ME-Watcher 再生」、「CS ME-Watcher モニタ」を使用するためのパスワードです。
- パスワードは6～14文字にしてください。
- 大文字・小文字の区別があります。

「インストール先の選択」が表示されます。

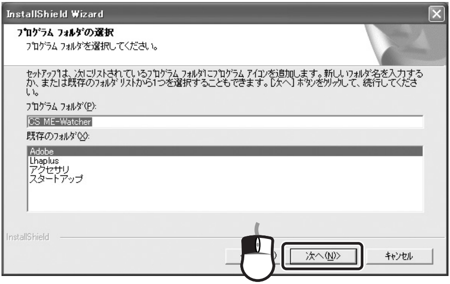
1-6. ［次へ］をクリックします。

※インストール先を変更したいときは、［参照］をクリックして、インストール先フォルダを指定してください。



「プログラムフォルダの選択」が表示されます。

1-7. [次へ]をクリックします。



「ファイルコピーの開始」が表示されます。

1-8. [次へ]をクリックします。



「セットアップステータス」が表示され、インストールが開始されます。
「InstallShield ウィザードの完了」が表示されます。

1-9. ［完了］をクリックします。



※「再起動」が表示されたときは、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、［完了］をクリックします。

1-10. コンピュータを再起動します。

これでCS ME-Watcherユーティリティのインストールは終了です。

2. CS ME-Watcherユーティリティの起動

「スタート」メニューをクリックします。「プログラム」→「CS ME-Watcher」→「○○」を選択します。(「○○」:「CS ME-Watcherモニタ」、「CS ME-Watcher再生」)

●ワンポイント

WindowsXPのときは、「スタート」→「全てのプログラム」→「CS ME-Watcher」→「○○」になります。

デスクトップ上の「CS ME-Watcherモニタ」、「CS ME-Watcher再生」アイコンからも起動できます。

第7章 カメラの映像を表示する

1 .カメラを検索する

Installation Wizardを使いLAN内に接続されたカメラを検索します。
※Installation Wzardの使用方法は、別冊の「Installation Wizard」のユーザーズ・マニュアルを参照してください。

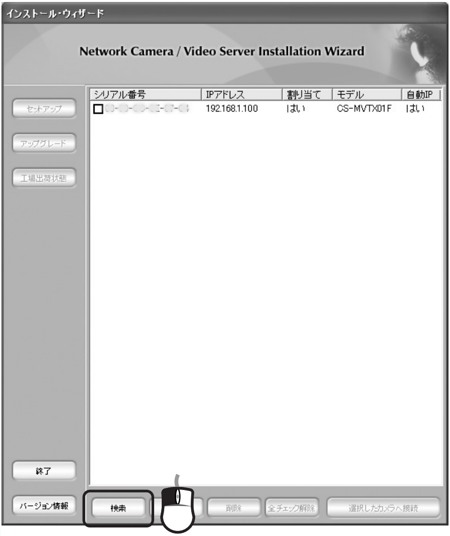
1-1.「スタート」をクリックします。

1-2.「プログラム」→「Installation Wizard」→「Installation Wizard」をクリックします。

「インストール・ウィザード」が表示され、LAN内に接続されたカメラ(本製品)を自動的に検索します。
初期設定では、カメラのIPアドレスは、「192.168.1.100」に設定されています。

LAN内に接続されたカメラ(本製品)を自動的に検索します。





■検索できないときは、[検索]をクリックしてください。

■「第5章 設定用コンピュータの準備」
（38ページ）を参照してください。

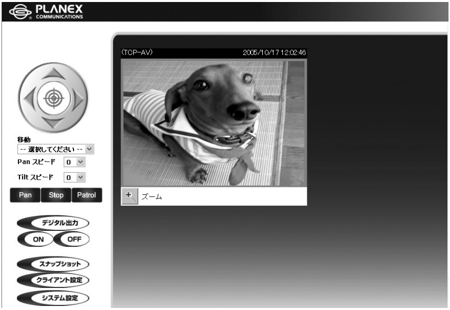
※複数のカメラが検出されたときは、本製品の底面のラベルに書かれたMACアドレスで識別します。
「第2章 2.本体後部」（22ページ）を参照してください。

2. カメラの映像を表示する

2-1.WEBブラウザを起動して、アドレス入力欄にInstallation Wizardで検索した「現在のIPアドレス」を入力します。
※初期設定では、「192.168.1.100」です。



2-2.「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、[OK]をクリックします。
WEBブラウザにカメラの映像が表示されます。



● Plug-inのインストール

初めてカメラの画面を表示するときに、「セキュリティの警告」が表示されることがあります。［はい］をクリックします。



WEBブラウザのセキュリティレベルによって、Plug-inの実行が許可されないときもあります。WEBブラウザのセキュリティ設定は、66ページを参照してください。

当Plug-inコントロールは、WEBブラウザで動画を表示するために使用します。

第8章 カメラの設定

1.WEBブラウザの設定

WEBブラウザの設定
カメラの画面を正しく表示するために、WEBブラウザの設定を確認してください。

1-1. Internet Explorerを起動します。



1-2.「ツール」→「インターネットオプション」をクリックします。

1-3.「セキュリティ」をクリックし、「信頼済みサイト」をクリックして[サイト]をクリックします。



「信頼済みサイト」が表示されます。



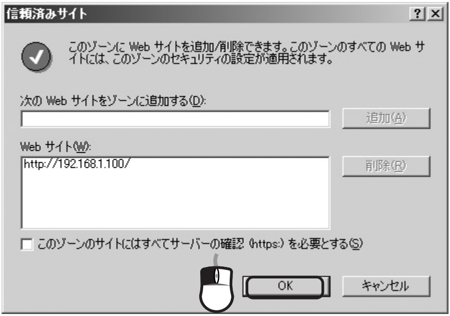
1-4.「次のWebサイトをゾーンに追加する」にhttp://「Installation Wizardで検索されたIPアドレス/」を入力します。

（例:http://192.168.1.100/）

「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https)を必要とする」チェックボックスのチェックを外し、[追加]をクリックします。



1-5. ［OK］をクリックします。



「インターネットオプション」ウィンドウに戻ります。

1-6. ［OK］をクリックします。



2.トップページ

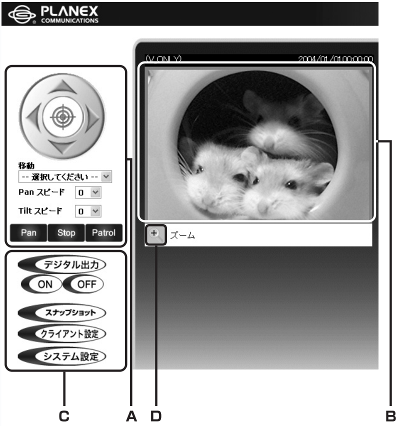
本製品のトップページは3つの部分で構成されています。

A パン/チルトコントロール
表示場所を変更（詳細は次ページを参照してください）

B カメラ映像画面
本製品の動画映像を表示

C 設定リンクフィールド
本製品の設定（詳細は「第8章 4.クライアント設定」（74ページ）を参照してください）

D ズームボタン
映像を拡大表示



3.表示する場所を変更する (パン/チルトコントロール)

表示している場所をWEBブラウザ上から変更できます。



「方向」ボタン／「ホームポジション」ボタン
手動で表示する場所を変更できます。

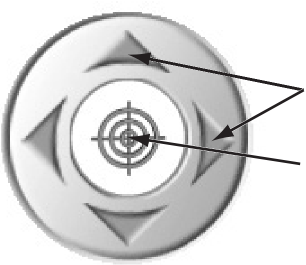
登録した場所を表示できます。

手動の移動量を設定できます。

自動的に表示する場所を変更できます。

3-1. 手動で変更する

Aパン/チルトコントロールの「方向」ボタン/「ホームポジション」ボタンを使って表示する場所を変更できます。



「方向」ボタン
ボタンをクリックすると、
パン(右、左)、チルト(上、下)に動きます。

「ホームポジション」ボタン
「方向」ボタンで動かす前の場所に戻ります。

「Panスピード」ボタン/「Tiltスピード」ボタンを使って移動量を変更できます。
標準値は「0」で標準値に対してより移動量を大きくしたいときは数字を大きく設定してください。
標準より移動量を小さくしたいときは数字をマイナス方向に設定してください。
「Panスピード」は水平(左右)、「Tiltスピード」は垂直(上下)の移動量を変更できます。

3-2. 自動で変更する

Aパン/チルトコントロールの「Pan」ボタン/「Patrol」ボタンを使って自動的に表示する場所を変更できます。



「Pan」ボタン

垂直方向は固定したまま、左右方向へ自動的に表示します。

「Patrol」ボタン

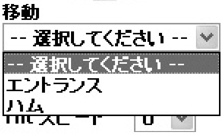
「システム設定」の「カメラコントロール」ページで「選択済みロケーション」に追加されているポジション順に自動的に表示します。

「Stop」ボタン

「Pan」および「Patrol」の動作を中止します。

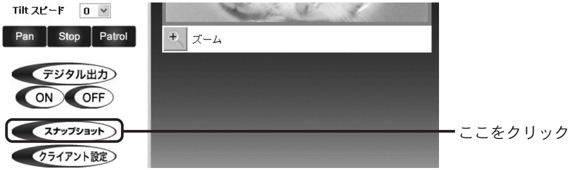
・Aパン/チルトコントロールの「移動」から登録された場所を自動的に表示します。

「移動」のなかから表示したい場所を選択します。
自動的に選択された場所を表示します。
表示されるリストは、「第8章 5-7.カメラコントロール（97ページ）のプリセットポジション」の内容になります。



4. クライアント設定

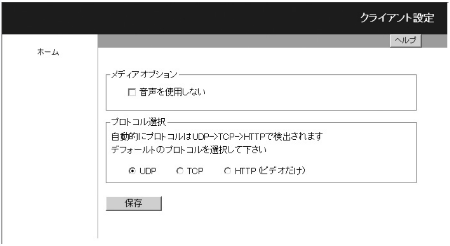
トップページの「クライアント設定」をクリックします。



初めて「クライアント設定」にアクセスしたときは、以下の警告画面が表示されることがあります。[はい]をクリックしてPlug-inをインストールしてください。ブラウザ側でインストールが拒否されるときは、インターネットセキュリティレベルを下げてください。



以下のクライアント設定画面が表示されます。



「メディアオプション」
音声を使用しないときはチェックを入れます。

「プロトコルオプション」
クライアントとサーバ間の接続プロトコルを選択します。

UDP ……音声および動画ストリームがよりリアルタイムで再生されますが、送信パケットの損失の可能性があるため、画像が不鮮明になることがあります。

TCP ……パケット損失が発生せず画像も鮮明になりますが、リアルタイム効果はUDPプロトコルより劣ります。

HTTP …ファイアウォールが使用されており、HTTPポート(80)のみが開かれているときはHTTPプロトコルのみ選択可能です。このとき音声は送信されないため動画のみ閲覧できます。

5. システムの詳細設定

5-1. システム

本製品のデバイス名や日時の設定等を行うことができます。



「デバイス名」
本製品のデバイス名を設定します。ブラウザでアクセスした時のタイトルにもなります。

「LEDをOFF」
本製品前面についている「Power/MIC」「Activity」のランプを消すことができます。ランプを消したいときはチェックしてください。

「現在の日付/時間の保持」
現在本製品のタイマーで保持している日時をそのまま使います。

「PCの時間に同期」
接続しているコンピュータの日時と同期させます。選択して[保存]をクリックすると、その操作を行ったコンピュータの日時に本製品の日時に合わせます。

「手動設定」
日時を手動設定します。設定したい日時を設定して ［保存］をクリックすると日時のカウントを開始します。

「自動設定」
設定されているNTPサーバへ日時の確認を行います。

「NTPサーバ」
参照するNTPサーバのアドレスを入力してください。

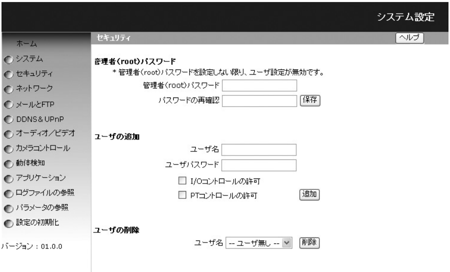
「タイムゾーン」
標準時に対するズレを指定します。（GMT+9:00 日本時間）「GMT+9:00」を選択してください。

「更新インターバル」
どのくらいの頻度でNTPサーバにアクセスして日時を修正するか選択します。「毎時」を選択すると1時間おきにNTPサーバへアクセスします。通常は「毎週」か「毎月」を選択してください。

[保存]
設定内容を保存するときはクリックしてください。

5-2.セキュリティ

本製品の管理者パスワードや、アクセスできるユーザ用のアカウントの作成が行えます。



「管理者(root)パスワード」

本製品の設定を行うユーザ用のパスワードを設定します。管理者は本製品アクセス時に「ユーザ名」に「root」を設定し、ここで設定したパスワードで接続すると、本製品の全ての設定を行うことができます。パスワードが設定できたら右側の[保存]をクリックしてください。

ユーザの追加・認証をするためには、管理者パスワードを設定する必要があります。

「ユーザの追加」

本製品にアクセスするユーザ用のアカウントを作成します。

「ユーザ名」

ログインする時のユーザ名を指定します。

「ユーザパスワード」
ログインする時のパスワードを指定します。

「I/Oコントロールの許可」
ログインユーザに「デジタル出力」のON/OFF設定を許可するときはチェックを入れます。

「PTコントロールの許可」
ログインユーザに「パン/チルトコントロール」の設定を許可するときはチェックしてください。必要な項目を設定したら右側の［追加］をクリックしてください。ユーザアカウントが追加・作成されます。

「ユーザの削除」
作成したユーザアカウントを削除します。

「ユーザ名」
リストから削除したいユーザ名を選択して右側の［削除］をクリックしてください。

「デモ用のアカウントを有効」
このオプションを有効にしたときは、カメラアクセス時に「demo」と入力すればパスワードの入力なしで画像を閲覧することができます。(設定画面にはアクセスできません)

「他のゲスト用のスナップショットホームページを有効」
制限数（10）以上のユーザがアクセスしたときに静止画を表示することでアクセスを継続できるようにします。「スナップショットインターバル」に設定した間隔で、撮影される画像が更新されます。
設定したら［保存］をクリックしてください。

5-3. ネットワーク

本製品のIPアドレス等ネットワーク関係の設定を行います。

基本設定



「次回起動時にIPアドレスをリセット」
このオプションを有効にして設定を保存すると、本製品が起動する度にIPアドレスを自動取得します。初期設定では、有効に設定されています。IPアドレスを固定するときは、チェックをオフにします。

「IPアドレス」
本製品のIPアドレスになります。出荷時は「192.168.1.100」に設定されています。

「サブネットマスク」
本製品のサブネットマスクです。出荷時は「255.255.255.0」に設定されています。

「デフォルトゲートウェイ」
本製品のデフォルトゲートウェイです。出荷時は設定されていません。ブロードバンドルータ環境で使用して、インターネットからカメラ画像を見るときは、ルータのIPアドレスをここに設定します。

「プライマリーDNS」
ドメインネームサーバのアドレスを指定します。ご利用のプロバイダに指定されているDNSサーバアドレスを指定するか、ルータのIPアドレスを指定します。コンピュータの設定に合わせるのが確実です。

「セカンダリーDNS」
「プライマリーDNS」のバックアップ用です、特に指定されてないときは設定する必要はありません。

HTTP

画像データをHTTPを使って送信するときのポート番号を設定します。

「HTTPサーバポート番号」

出荷時のポート番号は「80」が設定されています。すでにウェブサーバを設置しているときや、他にポート80を利用している機器があるときは番号を変更してください。また、外部公開するときは、複数の本製品を使用するときはカメラごとにこの番号を重複しないよう変更してください。

ストリーミング
ストリーミングデータの送信に使用するポート番号を変更することができます。通常は出荷時のままご利用いただいて構いません。既に該当するポートを使用しているとき変更してください。

「コントロールチャンネルポート」
カメラの向き等をコントロールするのに使用するポートを指定します。初期値は5001です。

「ビデオチャンネルポート」
画像データを送信するのに使用するポートを指定します。
初期値は5003です。

「オーディオチャンネルポート」
音声データを送信するのに使用するポートを指定します。
初期値は5002です。

[保存]
設定内容を保存するときはクリックしてください。

WLAN設定

「SSID」

接続先の無線ネットワーク名を入力します。

「無線モード」

「インフラストラクチャ」/「アドホック」が選択できます。

インフラストラクチャ、アドホックについては以下を参照してください。

インフラストラクチャ	各無線末端がアクセスポイントを介して相互通信する方法です。 アクセスポイントを介して通信するので、アクセスポイントに接続している有線 LAN と通信できます。
アドホック	各無線端末がアクセスポイントを介さずに相互通信する方法です。 無線 LAN 通信機器同士による通信のみできます。

「チャンネル」

無線LANで使うチャンネルを1～14から選びます。

「無線モード」にアドホックを選択しているときに変更できます。

インフラストラクチャでは無線LANアクセスポイントに設定されたチャンネルで通信します。

●*注意*

アドホックモードは、IEEE802.11bでご利用できます。

「送信速度」

「Auto」を設定したときは、接続先の無線LAN通信機器に合わせて自動的にIEEE802.11bまたはIEEE802.11gが選択され、速度が自動設定されます。

IEEE802.11bまたはIEEE802.11gによって設定できる通信速度は異なります。

通信方式	通信速度
IEEE802.11b	Auto／1Mbps／2Mbp／5.5Mbp／11Mbp
IEEE802.11g	Auto／1Mbps／2Mbp／6Mbp／9Mbp／12Mbp 18Mbp／24Mbp／36Mbp／48Mbp／54Mbp

「プリアンブル」

「ショートプリアンブル」または「ロングプリアンブル」を選択できます。初期値は「ショートプリアンブル」です。

「データ暗号化」

チェックボックスのチェックをオンにすると、WEP暗号化の設定が有効になります。

「認証モード」

「自動」、「共有キー」または「オープン」を選択できます。

自動	シェアードキー認証とオープンシステム認証を自動で切り替えます。
シェアード	シェアードキー認証を行います。
オープン	オープンシステム認証を行います。

「キーの長さ」
「64bit」、「128bit」の2種類から選択できます。
64bitより128bitの方がセキュリティは堅固ですが、通信速度が遅くなります。

「キーフォーマット」
「キー1」〜「キー4」の4つのキーを入力できます。このなかの一つを暗号キーとして使います(デフォルトキー)
入力できる文字数は、以下のようになります。

キーフォーマット	64bit	128bit
16進数	0〜9、A〜F、a〜fの10文字	0〜9、A〜F、a〜fの26文字
文字列	0〜9、A〜Z、a〜zの5文字	0〜9、A〜Z、a〜zの13文字

「デフォルトキー」
「キー1」〜「キー4」のなかから使用する暗号キーを選びます。

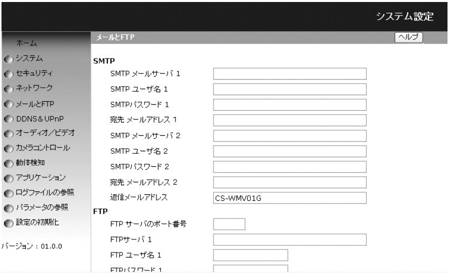
●*チェックポイント*

無線LANの設定を有効にするためには、本製品を再起動します。
※本製品のリセットボタンを1秒押すと再起動します。

5-4. メールとFTP

本製品の画像の送信先の設定を行います。

SMTP



メールを使って静止画像を送信するときに使用します。SMTP設定は「1」と「2」の2種類が設定可能です。通常は「1」の設定が利用されますが、「1」で指定されたメールサーバが利用できなかったとき「2」の設定が利用されます。「2」は設定しなくても利用可能です。設定が判らないときはメールソフトの設定内容を確認してください。

「SMTPメールサーバ1」
利用しているメールサーバのドメイン名もしくはIPアドレスを設定してください。

「宛先メールアドレス1」
画像ファイルを送信する宛先のメールアドレスを設定してください。ここに設定したメールアドレス宛に画像ファイルを送信します。複数の宛先を指定するときは、アドレスの間に「;（セミコロン）」を入れてください。
（例:test@test.co.jp;user@test.com）

「SMTPユーザ名1」
メールサーバ利用時のユーザ名を入力します。

「SMTPパスワード1」
メールサーバ利用時のパスワードを入力します。

「SMTPメールサーバ2」
「宛先メールアドレス2」

「返信メールアドレス」
メール送信が失敗したときに、その通知を送信する返信用のメールアドレスです。

※プロバイダによっては、この機能が使えないこともあります。

FTP

静止画像をFTPサーバへ送信するときに使用します。「1」の設定がデフォルトで利用されます。「2」の設定は「1」で設定したFTPサーバが利用できなかったときのバックアップ用の設定になります。

「FTPサーバのポート番号」
FTPサーバとの通信に使用するポート番号を指定します。通常は出荷時の「21」のままご利用ください。変更したときは外部FTPクライアント側でもサーバポートの設定を変更する必要があります。

「FTPサーバ1」
アップロード先のFTPサーバのドメインもしくはIPアドレスを設定します。

「FTPユーザ名1」
アップロード先のFTPサーバにログインする際のユーザ名を設定します。

「FTPパスワード1」
アップロード先のFTPサーバにログインする際のパスワードを設定します。

「フォルダ名1」
アップロード先になるFTPサーバ上のフォルダを設定します。

「プライマリFTPパッシブモード」
本製品がブロードバンドルータ等ファイアウォールにより保護されているネットワークの内部で使用されているときは、FTPへのデータ接続ができない可能性があります。本オプションを有効にすると、この制限を回避してスナップショットのアップロードを行うことが可能です。外部FTPサーバ側でパッシブモードに対応していないときにパッシブモードを選択すると、本製品は自動的にアクティブモードで接続を行います。

「FTPサーバ2」

「FTPユーザ名2」

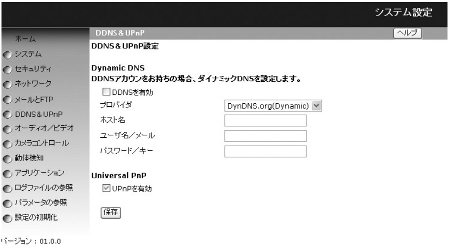
「FTPパスワード2」

「フォルダ名2」

「セカンダリFTPパッシブモード」

5-5. DDNS&UPnP

ダイナミックDNSとUPnP機能の設定を行います。



DynamicDNS

ダイナミックDNS(以下DDNS)とは動的IPアドレスの環境でドメイン名でアクセスできるようにする機能です。

本製品では「DynDNS.org、MyDNS、DynamicDo!」に対応しています。

●注意

本製品のダイナミックDNS機能は、10分毎に更新をおこないます。
また、常時接続状態を前提としているため、下記の場合も更新の確認をします。

- *はじめてダイナミックDNS機能の設定をおこない、有効にしたとき*
- *ダイナミックDNSの設定を変更・保存したとき*
- *インターネットとの接続が確立したとき*
- *WAN側ポートIPアドレスが変化したとき*

なお、ブロードバンドルータ環境でご利用の場合、ルータがダイナミックDNSに対応しているときはルータのダイナミックDNS機能をご利用ください。

「DDNSを有効」
本製品のDDNS機能を利用するときはチェックしてください。

「プロバイダ」
DDNSサービスを登録したサービス名を選択してください。

「ホスト名」
DDNSサービスで登録したホスト名を設定してください。
例:webcamera.dyndns.org で登録のときは「webcamera」と入力します。

「ユーザ名/メール」
DDNSサーバへ登録したユーザ名、メールアドレスで登録したときはメールアドレスを設定してください。

「パスワード/キー」
DDNSサーバへ登録したパスワードまたはキーを設定してください。

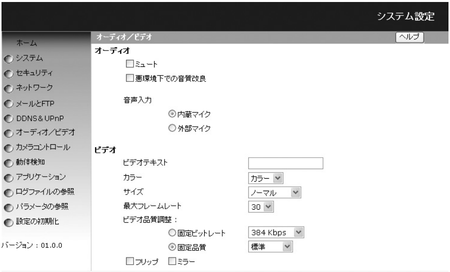
Universal PnP
本製品のUPnP機能を設定します。
UPnP機能でカメラを認識します。

「UPnPを有効」
このオプションにチェックをすると、本製品のUPnP機能が有効になります。

「保存」
設定内容を保存するときはクリックしてください。

5-6. オーディオ/ビデオ

音声の設定とビデオ画像の設定を行うことができます。



オーディオ

「ミュート」
音声を再生しないようにします。

「悪環境下での音質改善」
回線速度の遅い環境で音声品質が悪いときは、このオプションを有効にすると音質が良くなりますが、映像に対する音声の同期性が低下します。

「オーディオソース」
「内蔵マイク」をチェックするとカメラ内蔵のマイクを使用します。
「外部マイク」をチェックすると、マイク接続端子に接続した機器を使用します。

ビデオ

「ビデオテキスト」
こちらに設定した名前が、日付・時刻と共にビデオウィンドウのタイトルバーに表示されます。

「カラー」
表示画像をカラーにするか白黒にするか設定します。
「カラー」を選択すると再生画像がカラー表示になります。
「白黒」を選択すると再生画像が白黒表示になります。

「サイズ」
画像の表示サイズを設定します。

- ●「ハーフ」176×120
- ●「ハーフ×2」352×240（「ハーフ」を2倍に拡大表示するため画質はハーフより落ちます）
- ●「ノーマル」352×240
- ●「ノーマル×2」704×480
- ●「ダブル」704×480

「最大フレームレート」
動画像の1秒あたりの枚数を設定します。数字が大きいほどコマ数が増えるので滑らかな動画になりますが、それだけ回線速度が必要になります。関東など50Hzの地域では「25」、関西など60Hzの地域では「30」を基本にしてください。
初期値は「30」です。

「ビデオ品質調整」
動作品質の設定を行います。カメラの画像データを送信する回線に合わせて設定を行ってください。

「固定ビットレート」
このオプションで設定を行うときは、選択する数字が大きいほど高品質な動画になりますが、速い回線が必要になります。初期値は「384Kbps」です。

「固定品質」
このオプションで設定を行うときは、選択する項目により「最低画質」→「最高画質」となります。
「最高画質」を選択すると高品質な動画になりますが、速い回線が必要になります。初期値は「標準」です。

「フリップ」
カメラ画像を縦方向に反転して表示します。初期値は「無効」です。

「ミラー」
カメラ画像を横方向に反転して表示します。カメラを逆さまに設置するようなとき、「フリップ」と「ミラー」にチェックを入れることで正常な画像としてみることができます。
設定ができたら［保存］をクリックしてください。初期値は「無効」です。

「画質調整」
カメラ画像の彩度、明度、コントラストや色調を調整します。
「輝度、彩度、コントラスト、色調」



カメラ画像の各項目の設定を「-5~+5」の範囲で設定できます。

[プレビュー]
設定したカメラ画像を確認できます。

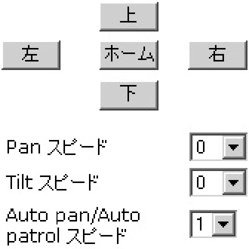
[元の設定に戻す]
デフォルト設定に戻ります。

[保存]
設定内容が有効になります。

[閉じる]
「イメージ設定」を閉じます。

5-7. カメラコントロール

カメラの向いている方向を操作することができます。



［右］［左］［上］［下」

カメラの向きを操作したいときは、その方向のボタンをクリックしてください。

［ホーム］

カメラの向きを中央に戻したいときに押してください。

「Pan スピード」

カメラの水平方向に動くスピード(移動量)を設定します。
「0」を基準にマイナス方向に設定すると、数字が大きいほど一度に移動する量がより小さくなります。プラス方向に設定すると、数字が大きいほど一度に移動する量がより大きくなります。

「Tilt スピード」
カメラの垂直方向に動く移動量を設定します。
「0」を基準にマイナス方向に設定すると、数字が大きいほど一度に移動する量がより小さくなります。プラス方向に設定すると、数字が大きいほど一度に移動する量がより大きく(スピードが速く)なります。

「Auto Pan/Auto Patrol スピード」
「Auto Pan」や「Auto Patrol」を選択した時の移動速度を設定します。より大きい数字を選択するほど「Auto Pan」や「Auto Patrol」を選択した時に、すばやくカメラの方向を移動するようになります。

「赤外線コントロール」
本製品付属のリモコンでカメラを制御するときにチェックを入れてください。

「現在地」
カメラにアクセスした時に表示されるカメラの名前になります。
「上、下、左、右」ボタンでカメラの向きを設定した後、ここに名前を入れて右側の[追加]をクリックすると、その名前とカメラの方向データが「プリセットポジション」と「プリセットロケーション」に追加されます。
最大20ヶ所の登録が可能です。

「プリセットポジション」
設定済みのプリセットデータを削除します。
削除したい名前を選択して、右側の［削除］をクリックしてください。

「停止時間」
「Auto Patrol」を選択したときに、選択ポジションになったときの停止時間を設定します。「3」と設定したときは、カメラポジションが移動するごとに3秒停止してから、次のカメラポジションへ移動します。

「Patrol選択」
「Auto Patrol」選択時に、どの順番でポジションを移動するか選択します。「プリセットポジション」に予め設定されているカメラのポジションが選択されているので、追加する現在地名を選択して［選択］をクリックしてください。「選択済みロケーション」に追加されます。「Auto Patrol」で再生される順番は、追加された順番に処理されます。

［保存］
設定内容を保存します。

5-8.動体検知

撮影している画像に変化があったときは、それをトリガーとして画像をメールやFTPで送信することができます。



「動体検知を有効」
動体検知機能を有効にするときはチェックを入れてください。

「検知地域の名前」
検知範囲ごとの名前を設定します。本製品では1つの画面上で、検知する場所を3箇所設定することができます。

「感度」
検知範囲の感度を設定します。より高く設定すると少しの変化でも反応するようになりますが、あまり高く設定すると照明のチラつきでも反応するので、変更しながらご使用の環境に適した値に設定してください。

「変化比率」
検知範囲で画像にどのくらい変化があったら反応するか設定します。より低く設定すると小さな変化でも反応するようになりますが、虫が通っただけでも反応するので、変更しながらご使用の環境に適した値に設定してください。

「新規」
新しい検知ウィンドウを作成するときにクリックしてください。
最大で3つの範囲を表示させることができます。

[保存]
設定内容を保存するときにクリックしてください。
「感度」等を変更したときは[保存]をクリックしないと有効になりませんのでご注意ください。なお、設定は検知ウィンドウごとになりますので、アクティブになって(選択されて)いるウィンドウごとに「感度」と「変化比率」を設定してください。

●設定手順

5-8-1.「新規」をクリックして検知範囲ウィンドウを表示させます。

5-8-2. 検知する場所へウィンドウを移動させて、範囲を変更します。

5-8-3.「感度」と「変化比率」を設定して、「検知地域の名前」に任意の名前を入力して[保存]をクリックすると、設定内容が保存されます。

感度の確認は[新規]左のバーで確認できます。バーの色が緑のときは画像変化が設定したレベル以下であることを示し、赤のときは画像変化が設定したレベルを超えたことを表します。

●ワンポイント

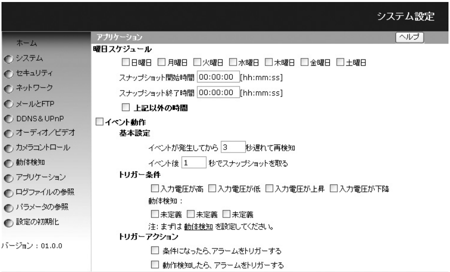
内容を変更したときは[保存]をクリックしてください。

●検知範囲の削除

撮影画面上の検知範囲ウィンドウの右上の「×」をクリックすると削除されます。削除したら[保存]をクリックします。

5-9. アプリケーション

タイムスケジュールや動体検知を使って撮影画像をメール送信したり、FTPで送信するための設定を行います。



「曜日スケジュール」
撮影を行う曜日や時間帯の設定を行います。初期値はすべて無効です。

「日曜日」～「土曜日」
撮影を行う曜日を指定します。

「スナップショット開始時間」
撮影開始時間を指定します。

「スナップショット終了時間」
撮影終了時間を指定します。

「上記以外の時間」
上記で設定された曜日と時間帯以外に機能するようになります。

「イベント動作」
画面撮影のトリガー(条件)や、検知間隔等の設定を行います。
イベント動作の条件を有効にするときは「イベント動作」にチェックを入れてください。初期値は無効です。

「基本動作」
イベント発生時の動作の設定を行います。

「次の検知までの時間」
イベントが発生してから、次にイベント検知を行うまでの時間を設定します。例えば「30」と設定すると、動体検知してから画像撮影後30秒しないと検知を行うことができません。小さくすれば頻繁に検知を行うことができますが、イベント検出の条件によっては撮影枚数が膨大になりますので注意してください。999秒まで設定可能です。

「検知してから撮影までの時間」
イベントが発生してから実際に撮影するまでの時間を設定します。例えば「10」と設定すると、動体検知すると検知直前と検知時の画像を撮影してから、その10秒後に映っている画像を撮影します。(つまり一度の動作で3枚の画像を撮影します)
999秒まで設定可能です。

「トリガー条件」
どのイベント(項目)を撮影するためのトリガーとするか指定します。初期値はすべて無効です。

「入力電圧が高」「入力電圧が低」
「入力電圧が上昇」「入力電圧が下降」
デジタル端子に接続された外部機器からの入力をトリガーにするときの条件を設定します。「入力電圧が高/低」を選択すると、レベル・トリガーの外部ボルテージ入力を指し、「入力電圧が上昇/下降」を選択すると、エッジ・トリガーの外部ボルテージ入力を指します。デジタル端子を使わないときはこれらのオプションは使用しません。初期値はすべて無効です。

「動体検知」
動体検知機能をトリガーにするときに、トリガー対象にする検知範囲を指定します。「5-8」の「動体検知」で追加した検知ウィンドウの「検知地域の名前」に設定した名前で表示されます(「未定義」と表示されているときは、その設定は存在しません)。トリガーにしたい項目にチェックを入れてください。初期値はすべて無効です。

「トリガーアクション」
デジタル入力の条件、またはモーション検知の条件を満たした時の動作を指定します。初期値はすべて無効です。

「条件になったら、アラームをトリガーする」
「トリガー条件」でデジタル端子に接続された外部機器からの入力を選択したときは、「トリガー条件」を満たすとデジタル端子の出力を使って外部機器への接続を行います。

「動体検知されたら、アラームをトリガーする」
「トリガー条件」で「動体検知」を選択したときは、動体を検知するとデジタル端子の出力を使って外部機器への接続を行います。

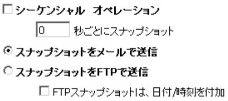
「条件になったら、スナップショットを送信する」
「トリガー条件」でデジタル端子に接続された外部機器からの入力を選択したときは、「トリガー条件」を満たすとメールもしくはFTPにて撮影画像を送信します。

「動体検知されたら、スナップショットを送信する」
「トリガー条件」で「動体検知」を選択したときは、動体を検知するとメールもしくはFTPにて撮影画像を送信します。

メールもしくはFTPで画像を送信するとき、以下の3枚のファイル名の画像が送信されます。

- ・vpre.jpg　イベント前の撮影画像を指します。
- ・vtrg.jpg　イベントと同時の撮影画像を指します。
- ・vpos.jpg　イベント発生後「検知してから撮影までの時間」経過後の撮影画像を指します。

「出力リセット」
アラーム発生時に、外部端子への電源供給をオフにします。
初期値は無効です。



「シーケンシャルオペレーション」
カメラの撮影画像をメール送信、またはFTPサーバへ送信する時間の間隔になります。このオプションを有効に設定すると、曜日スケジュースで指定された曜日と時間帯に従って、指定された間隔で撮影画像をメールまたはFTPサーバへ送信します。
例えば「10」と設定したときは、所定の時間になったら10秒間隔で撮影画像を指定された方法で送信します。初期値は無効です。

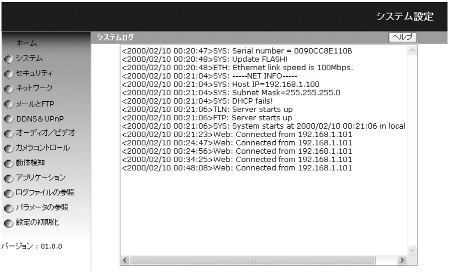
「スナップショットをメールで送信」
撮影した画像をメールで送信するときは、こちらをチェックしてください。
送信先は「第8章5-3 ネットワーク」で設定したメールアドレスもしくはFTPサーバになります。

「スナップショットをFTPで送信」
撮影した画像をFTPサーバに送信するときは、こちらをチェックしてください。
送信先は「第8章5-3 ネットワーク」で設定したメールアドレスもしくはFTPサーバになります。

「FTPスナップショットは、日付/時刻を付加」
FTPサーバに撮影画像を送信するときに、ファイル名に日時をつけて送信します。

5-10. ログファイルの参照

本製品に対するアクセス履歴などを確認することができます。

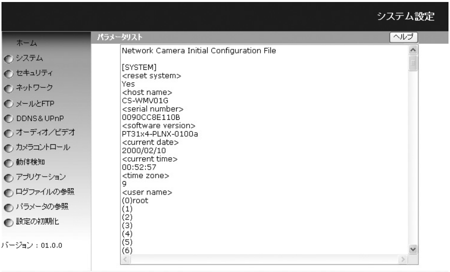


「システムログ」

本製品の起動時やアクセスされたログ等が記録されます。

5-11.パラメータの参照

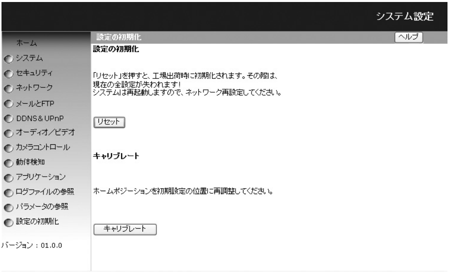
本製品の設定内容を確認することができます。



「パラメータリスト」

現在の本製品の各種の設定内容が表示されます。

5-12.設定の初期化



本製品の設定を初期化できます。

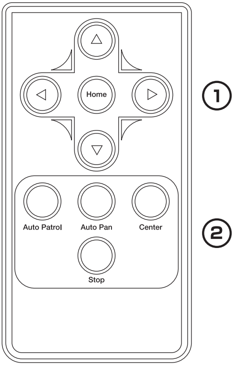
「設定の初期化」
「リセット」ボタンをクリックすると、本製品の設定が出荷時の状態にリセットされます。

「キャリブレート」
カメラ位置を電源を入れた時の状態に戻します。

第9章 リモコンの使い方

1. リモコンの操作方法

付属のリモコンを使って、レンズの位置を変更できます。



① 手動でレンズの位置を変更できます。

・方向ボタン

レンズの位置を三角の方向に変更できます。

▲：上　▼：下　◀：左　▶：右

・Homeボタン

方向ボタンで動かす前の位置にレンズを戻します。

② 自動でレンズの位置を変更できます。

・**Auto Patrolボタン**
選択済みロケーションに登録された順にカメラの方向が移動します。Auto-Patrolの設定は「第8章 5-7.カメラコントロール(97ページ)」を参照してください。

・**Auto Panボタン**
自動的に左右にレンズが動きます。詳細は「第8章 5-7.カメラコントロール(97ページ)」を参照してください。

・**Centerボタン**
レンズの位置を正面にします。

・**Stopボタン**
Auto Patrol、Auto Pan動作中のカメラを止めます。

※ カメラが動かないときは

(1) カメラの電源が入っていることを確認します。
(2) リモコンの送信部(「第2章 5.リモコン(23ページ)」を参照)、カメラの受信部(「第2章 1.本体前部(16ページ)」を参照)が破損または汚れがないことを確認してください。
(3) リモコンのボタン電池を確認してください。ボタン電池はCR2025です。これ以外のものは使用できません。
(4) リモコンのボタン電池を交換してください。
(5) カメラコントロールの設定で「赤外線コントロール」のチェックボックスをオンにします。チェックボックスがオフのとき、リモコンは使用できません。「第8章 5-7.カメラコントロール(97ページ)」を参照してください。

第10章 ファームウエアのアップデート

1.ファームウエアのアップデート手順

本製品のファームウエアのアップデート手順です。

●注意

- *ファームウエアを適用する前に現在の設定情報をメモに書き留めてください。ファームウエアをアップデートすると、登録されたアカウント情報、ロケーションの設定は消えます。*
- *ファームウエアの適用作業は、同じネットワークセグメントのコンピュータから実施してください。*
- *ファームウエアの適用作業中は、以下の点をお守りください。守られないときは、ファームウエアの適用に失敗し、復旧不能となる恐れがあります。*

a）本製品と適用作業に使用するコンピュータだけを接続してください
b）適用作業に使用するコンピュータ以外のネットワーク機器は必ず取り外してください
c）適用作業中は本製品と使用するコンピュータの電源は絶対に切らないでください
d）適用作業中はネットワークケーブルを抜かないでください
e）適用作業中は作業以外のネットワークの通信をしないでください
f）適用作業中は不要な操作をしないでください

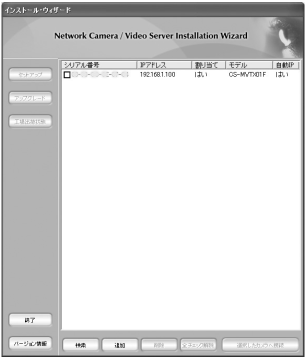
ここでは、例として「C:¥Firm」に「FLASH.BIN」を保存した場合で説明します。

1-1.「スタート」→「プログラム」→「Installation Wizard」→「Installation Wizard」をクリックします。

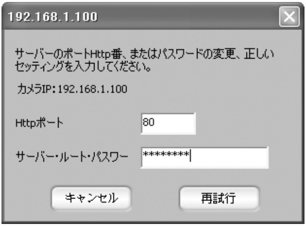


「インストール・ウィザード」が表示されます。

1-2.該当するカメラのシリアル番号をクリックしてチェックを入れ、[アップグレード] をクリックします。

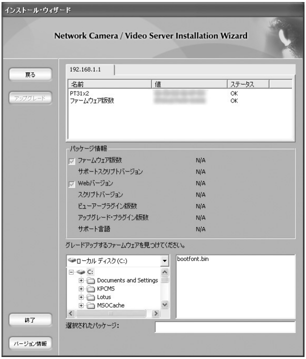


1-3.パスワードが設定されている場合、パスワードの入力が求められます。「サーバー・ルートパスワード」にrootのパスワードを入力して [再試行] をクリックします。
※初期設定では、パスワードは設定されていません。



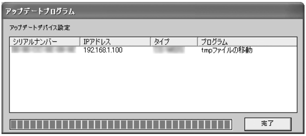
「インストール・ウィザード」に戻ります。

1-4.「ローカルディスク（C:）」を選び、下部で「Firm」を選びます。「FLASH.BIN」をクリックしてハイライト表示させ、［アップグレード］をクリックします。



「アップデートプログラム」が表示されます。

1-5.「完了」をクリックします。



以上でファームウェアの更新が完了しました。Installation Wizardの使用方法の詳細は「Installation Wizard」マニュアル（別冊）を参照してください。

第11章 他のコンピュータから本製品の映像を見る

1. ハブやスイッチ経由でLANのカメラとして使うとき

ブラウザを起動し、「アドレス」に「http://xxx.xxx.x.xxx」と本製品のIPアドレスを入力して〈Enter〉を押してください。設定画面と共にカメラが映している映像がWEBブラウザ上に表示されます。

2. ルータを介してインターネット上に公開したいとき

ADSLや光接続の環境でブロードバンドルータ(以下BBルータ)を使用してインターネットからカメラにアクセスさせたいときは、BBルータ側でインターネットからのアクセスをLAN上のコンピュータへ転送する機能(「ローカルサーバ機能」や「ポートフォワーディング機能」や「静的マスカレード機能」等と呼ばれます)を使って、外部からのアクセスをカメラに転送する設定が必要になります。
ここでは弊社製品「BRL-04FMX」を使って公開するときの設定例をご紹介します。(本製品のIPアドレスは出荷時のままと仮定します。)

2-1. BBルータの設定画面にアクセスします。
2-2.「ルータ設定」を選び「NAPT」をクリックします。



2-3.「静的マスカレード」の「静的マスカレードの追加」ボタンをクリックします。

2-4. 各項目を以下のように設定します。



静的マスカレードID:任意の番号を設定します。
プロトコル:TCP&UDP
リモートIPアドレス:*
リモートポート:*
外部IPアドレス:WAN側ポートIPアドレス
外部ポート:80
内部IPアドレス:192.168.1.100
内部ポート:外部ポートと同じ

2-5. ［設定］をクリックします。

以上でBBルータの設定は完了です。
インターネットからアクセスするときは、WEBブラウザの「アドレス」にBBルータが取得しているWAN側IPアドレスを指定してください(例: http://21*.11*.7*.10*)。
その際、設定画面にアクセスさせたくないときは72ページ「2.ユーザアカウントの設定」を参考に、あらかじめユーザアカウントを作成して、アクセス時に決められたユーザ名とパスワードでアクセスしてください。

BRL-04FMX以外のBBルータについては、ご利用のBBルータのマニュアルをご参照ください。

「複数のCS-WMV01Gを接続するときの設定」

ここでは弊社製品「BLW-04FMX」を使ってインターネットに接続している環境で、本製品を複数設置してインターネットからアクセスさせるときの設定例をご紹介します。

カメラ側の設定

2-6. 本製品の設定画面にアクセスして「システム設定」の「ネットワーク設定」画面の「IPアドレス」と「HTTP」の番号を重複しないように、それぞれ設定を変更してください。

例:
CS-WMV01G 1台目
IPアドレス: 192.168.1.100、 HTTPポート: 80

CS-WMV01G 2台目
IPアドレス: 192.168.1.101、 HTTPポート: 81

CS-WMV01G 3台目
IPアドレス: 192.168.1.102、 HTTPポート: 82

カメラと同じネットワーク上のコンピュータからカメラにアクセスするときは「例 http://192.168.1.102:82」のように、カメラのIPアドレスの最後にポート番号を追加してアクセスしてください。

ブロードバンドルータ側の設定

また、ブロードバンドルータ環境でインターネットから複数のカメラにアクセスをするときは、「ブロードバンドルータ環境で、インターネットからカメラにアクセスさせたいとき」で紹介しているようなポート転送の設定をカメラの台数分行う必要があります。BLW-04FMXの静的マスカレードを使ったときの設定例を記載します。こちらを参考にご利用のルータの該当機能の設定を行ってください。
各カメラのIPアドレスとポート番号は下記の設定例をもとに説明します。

1台目IPアドレス	192.168.1.100 ポート80
2台目IPアドレス	192.168.1.101 ポート81
3台目IPアドレス	192.168.1.102 ポート82

2-7. ルータの設定画面にアクセスします。

2-8.「ルータ設定」を選び「NAPT」をクリックします。



2-9.「静的マスカレード」の［静的マスカレードの追加］をクリックして、各項目を以下のように設定します。

●1台目用の設定



静的マスカレードID:任意の番号を設定します。
プロトコル:TCP&UDP
リモートIPアドレス:*
リモートポート:*
外部IPアドレス:WAN側ポートIPアドレス
外部ポート:80
内部IPアドレス:192.168.1.100
内部ポート:外部ポートと同じ

●2台目用の設定



静的マスカレードID:任意の番号を設定します。
プロトコル:TCP&UDP
リモートIPアドレス:*
リモートポート:*
外部IPアドレス:WAN側ポートIPアドレス
外部ポート:81
内部IPアドレス:192.168.1.101
内部ポート:外部ポートと同じ

●3台目用の設定



静的マスカレードID:任意の番号を設定します。
プロトコル:TCP&UDP
リモートIPアドレス:*
リモートポート:*
外部IPアドレス:WAN側ポートIPアドレス
外部ポート:82
内部IPアドレス:192.168.1.102
内部ポート:外部ポートと同じ

2-10. インターネットからそれぞれのカメラにアクセスする場合。WEBブラウザの「アドレス」にBBルータが取得しているWAN側IPアドレスと、アクセスしたいカメラのポート番号を指定してください。1台目のカメラにアクセスするときは、

「例: http://21*.11*.7*.10*」　もしくは

「例: http://21*.11*.7*.10*:80」

となります。2台目のカメラにアクセスするときはIPアドレスは同じで最後の「:」以降の番号を変更します。

「例: http://21*.11*.7*.10*:81」

3台目のカメラにアクセスするときは

「例: http://21*.11*.7*.10*:82」となります。

3. オープンサイトを作りたい

WEBサーバをお持ちのときは、ご自分のWEBページにカメラのイメージを取り込むことができます。

■ FTPサービスが利用できるとき

「大規模アクセスサイトを公開したい」（146ページ）の説明にしたがってFTPサーバの設定、及びスケジュールの設定をおこないます。

以下HTMLソースのサンプルを参照し、FTP経由でアップロードした画像ファイルを表示するホームページを作ります。
<IMG>タグを使用すれば簡単に画像を組み込むことができます。

●注意

サイトの公開は、弊社サポートの対象外です。お客様の責任において、お試しください。

記述例)

```
<HTML><HEAD><TITLE>My Homepage</TITLE></HEAD>
<BODY>
<CENTER>
<HR><FONT SIZE="5"><B>My Camera</B></FONT><BR>
<HR>
<BR>
<BR><HR><BR>
<FONT SIZE="2">
<A HREF="/album/family.html">マイ アルバム</A>¦
<A HREF="/index.html">トップページ へ</A><BR><BR>
<A HREF="/help/index.html">ヘルプ</A>¦
<A HREF="questions/index.html">お問い合わせはこちら
</FONT></A>
<BR><BR>
</CENTER>
</BODY>
</HTML>
```

IMG SRC="video.jpg"

 FTPサーバにアップロードしたカメラの画像"video.jpg"を指定します。HTMLファイルと別な場所に画像を送信しているときは、「video.jpg」の前にフォルダも指定してください。

 width="320" height="240"

画面に表示される画像のサイズを指定します

■ FTPサービスが利用できないとき

自動更新をおこなうホームページを使ってカメラから定期的に最新画像を取得し表示させることができます。

以下HTMLソースのサンプルを参照にし、自動更新で画像を表示するホームページを作ります。

(1)

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>CS-MVTX01F Networkcamera</TITLE>
<script Language="JavaScript">
<!-- Hide me from other browsers
var timerID = null;

var timerRunning = false;
var image_object;
function stopclock (){
        if(timerRunning)
                clearTimeout(timerID);
        timerRunning = false;
}

function startclock () {
        // Make sure the clock is stopped
        stopclock();
        showtime();
}

function showtime () {
        var now = new Date();
```

```
        var hours = now.getHours();
        var minutes = now.getMinutes();
        var seconds = now.getSeconds();
        var timeValue = "" + ((hours >12) ? hours -12 :hours)
        timeValue += ((minutes < 10) ? ":0" : ":") + minutes
        timeValue += ((seconds < 10) ? ":0" : ":") + seconds
(1)     timeValue += (hours >= 12) ? " P.M." : " A.M."
        document.webcam.src="http://192.168.1.100/cgi-  (2)
bin/video.jpg?"+timeValue;

        timerID = setTimeout("showtime()",1000);
        timerRunning = true;
}
// Netscapes Clock - Stop  -->
</script>
<base target="_self">

</HEAD>
<BODY bgcolor="#ffffff" text="#000000" link="#0000ff"
alink="#008000" vlink="#800080" onLoad="startclock()">

<div align="center">
  <center>

<table height="399" style="border-collapse: collapse" bor-
dercolor="#111111" cellpadding="0" cellspacing="0"
width="432">
<tr><td height="21" align="center" width="432">
<b><font size="5">My Auto Refresh Page </font></b>
</td></tr>
<tr><td height="349" width="432" align="center">
```

```
(2) <img name="webcam" src="http://192.168.1.100/cgi-
    bin/video.jpg" width="320" height="240">
</td></tr>
</table>
<BR><HR><BR>
<FONT SIZE="2">
<A HREF="/album/family.html">マイ アルバム</A>¦
<A HREF="/index.html">トップページ へ</A><BR><BR>
<A HREF="/help/index.html">ヘルプ</A>¦
<A HREF="questions/index.html">お問い合わせはこちら
</FONT></A>
<BR><BR>
  </center>
</div>
</BODY>
</HTML>
```

（1）の部分はJavaScriptの関数の記述した部分です。変更する必要がありません。（2）部分の中の「http://192.168.1.100/」IPアドレスを使用しているカメラのIPアドレスに書き換えます。カメラのIPアドレスは二個所に記述されており、両方を変更します。
それ以外の部分はご自分のホームページに合わせて、自由に変更することができます。

カメラを使いこなそう
-カスタマイズ編-

1.最適なパフォーマンスを得るための設定

最適なパフォーマンスとは、可能な限り最小限のネットワーク帯域幅を使ってできる限り速い画像のリフレッシュ(更新)レートおよび、可能な限り高い動画品質を得ることです。パフォーマンスの設定は「ビデオ/オーディオ」設定ページでおこないます。

左側のメニューから「オーディオ/ビデオ」をクリックします。次の設定画面が表示されます。

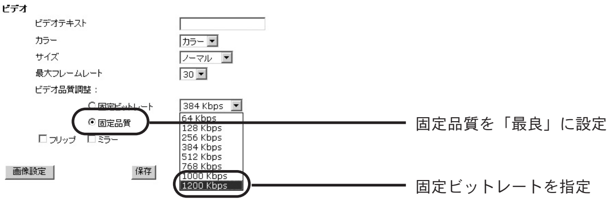


リアルタイム映像を最優先にしたい

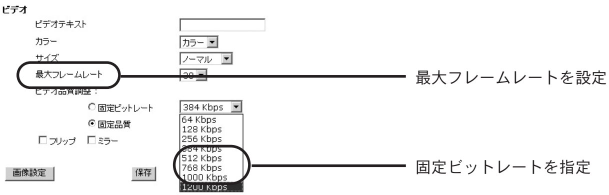
リアルタイム効果を得るためには、最低でも秒毎20画像を送信できるネットワーク帯域幅が必要となります。
1Mbps以上のブロードバンドネットワークをご使用のときはビットレートを1000Kbps または 1200Kbpsにして、固定品質を「最良」にしてください。

●注意

最大フレームレートは50Hzシステムでは25、また60Hzシステムでは30となります。

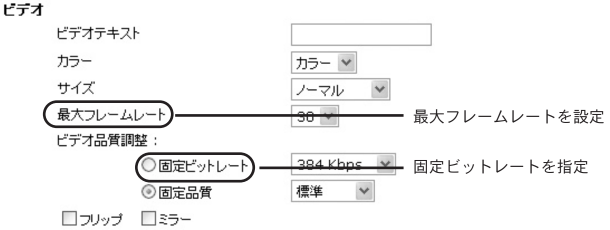


ネットワーク帯域幅が384Kbps以上であるときは、帯域幅に合わせてビットレートを固定し、最大フレームレート(25または30)を固定してください。



ご使用環境において画質が極端に劣化するときは、最大フレームレートを20に下げて送信データ量を減らすと画質が上がります(肉眼では、20フレーム/秒と25/30フレーム/秒の違いはほとんどありません)。

ネットワーク帯域幅が384Kbps以下のときは、帯域幅に合わせてビットレートを固定した上で、最適なパフォーマンスが得られるまで最大フレームレートを調整してください。
低速ネットワーク環境では、フレームレートが大きくなればなるほど画像はぼやけて表示されます。画像のサイズを「ハーフ」とすると画像品質を向上させることができ、「ハーフ x 2」で拡大表示することも可能です。

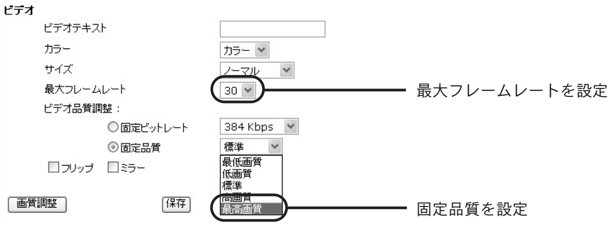


●*注意*

各パラメータを最適状態に調整しても、複数のユーザが同時に閲覧するときは、パフォーマンスはユーザごとに異なる可能性があります。各ユーザで環境が異なるため、迅速なネットワークではパフォーマンスも低下します。

画像の鮮明表示を最優先にしたい

最高の動画品質を得るためには、「ビデオ品質調整」で「固定品質」を「詳細」、または「最高画質」とした上で、最大フレームレートをご使用ネットワークの帯域幅に合うように設定します。低速なネットワーク環境において画像が乱れるときは、「クライアント設定」→「接続タイプ」でTCPプロトコルを選択してください。これで、より鮮明な画像が得られますが、ある程度遅れが生じます。なお、低速な接続環境で複数ユーザから閲覧したときは、パフォーマンスは低下してしまいますのでご注意ください。



リアルタイム映像←→鮮明表示の間で妥協したパフォーマンスを得たい

ブロードバンドネットワークをご使用のときは、帯域幅を固定せずに、「固定品質」を「標準」以上に設定します。 もしくは、ネットワークの実際の速度に合わせて帯域幅を固定し、フレームレートを30に設定してください。画質がよくないときはフレームレートを15以上30以下の範囲で選択し、もし改善されなければ、より低い帯域幅を設定してください。

2 ユーザアカウントの設定

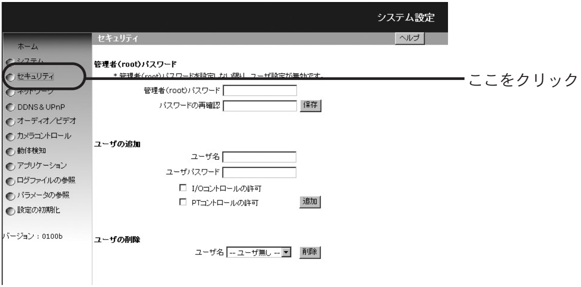
■ セキュリティは第一

本製品は工場出荷時パスワードが設定されていません。IPアドレスがわかれば、だれでもカメラにアクセスでき、システム設定も変更できます。外部ユーザがカメラにアクセスするようになっている時は、まず管理者(root)のパスワードを設定してください。

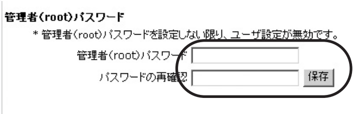
トップページで「システム設定」をクリックします。



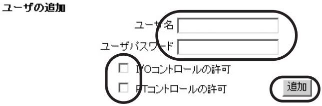
左側のメニューから「セキュリティ」をクリックします。次の設定画面が表示されます。



管理者(root)のパスワード」と「パスワードの確認」フィールドに新しいパスワードを入力し、［保存］ をクリックします。



次にユーザアカウントを設定します。最大20人分のユーザアカウントが登録可能です。



ユーザアカウント用の「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。

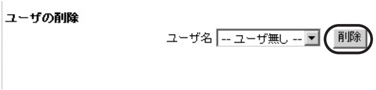
「I/Oコントロールの許可」ユーザにカメラの外部端子コントロールの権利をあたえることができます。

「PTコントロールの許可」ユーザにカメラのパン/チルト コントロール権利をあたえることができます。

●注意

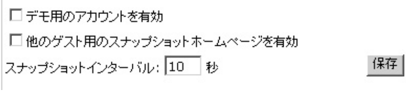
パン/チルト コントロールおよび、外部端子コントロールの権限は、ユーザごとに有効/無効にすることができます。

ユーザアカウントを削除したいときは、「ユーザ削除」→「ユーザ名」の一覧からユーザ名を選択して「削除」をクリックします。



■「デモ」アカウントを作りたい

「デモ用のアカウントを許可する」オプションをオンすると、カメラへのアクセスの際にユーザ名として「demo」を入力すれば、パスワード無しで映像を「デモ版」として閲覧できます。また管理者は、制限数を超えて閲覧者が動画を見られるよう設定することも可能です。ただし、制限数を超えたユーザには動画のかわりに静止画像(スナップショット)が表示されます。



■ マルチメディア対応の人気サイトを作りましょう

・友人に自慢したい! 小・中規模アクセスサイト

本製品は、閲覧者10人までが同時にアクセスできます。カメラの設定とユーザアカウントの設定後（「付録A 2.ユーザアカウントの設定」（141ページ）参照）、ご友人に閲覧用のカメラアドレスを連絡して、映像をご覧いただけます。ユーザはカメラの設定項目にアクセスできませんので、設定が変更されてしまう心配もありません。

●*注意*

外部の閲覧者がアクセスできるように設定するときは、「セキュリティ」設定画面上であらかじめユーザアカウントを登録し、未登録のユーザがアクセスできないようにしてください

・e-business用としてカメラを使いたい- 大規模アクセスサイト

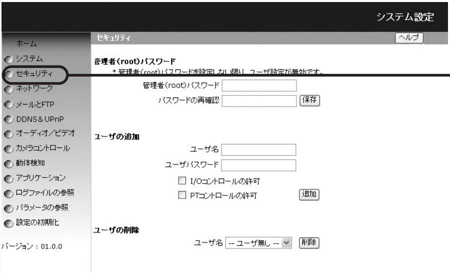
本製品は、同時に10人までのアクセスが可能です。それ以上閲覧者がアクセスしたときは、超過分のユーザにスナップショットのホームページを表示できます。スナップショットモードではJPEG静止映像を表示され、一定間隔で更新されます。

トップページで「システム設定」をクリックします。



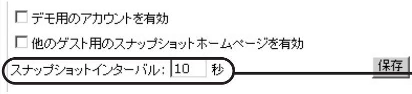
左側のメニューから「セキュリティ」をクリックします。

ページ最下部の「他のゲスト用のスナップショットホームページを有効」にチェックを入れます。



ここをクリック

「スナップショットインターバル」で、静止画像が更新される時間の間隔を設定します。間隔が長いほど、より多くの閲覧者にスナップショットホームページを提供できます。



ここを設定

●注意

本機能を使用するためには、ブラウザ側がスクリプト機能に対応している必要があります。

・大規模アクセスサイトを公開したい

さらに多くの閲覧者を集めたいときは、大容量ネットワークトラフィックの処理が可能なWebサイトを構築された上で静止画像の更新間隔を短めに設定してください。

● FTPサービスが利用できるとき
本製品をFTPへ画像アップロードするように設定しておきます。そのときは、本製品へのアクセスが閲覧者に依存しないため品質を確保できる利点があります。

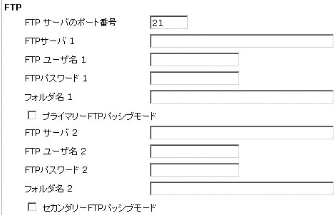
トップページで「システム設定」をクリックします。



左側のメニューから「メールとFTP」をクリックします。



以下のとおりにFTPを設定します。



「FTPサーバのポート番号 」
初期設定のポートは21で、通常は変更する必要がありません。
他の番号にも設定できますが、変更後は外部FTPクライアント側でもサーバポートの設定を同様に変更する必要があります。

「FTPサーバ1」
外部FTPサーバのドメイン名、またはIPアドレスです。

「FTPユーザ名1」
外部FTPサーバにログインするときに使われるユーザ名です。

「FTPパスワード1」
外部FTPサーバにログインするときに使われるパスワードです。

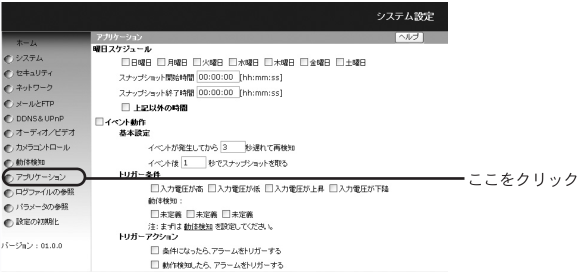
「フォルダ名1」
外部FTPサーバ上の既存のフォルダ名です。JPEG画像が指定したフォルダにアップロードされます。

「プライマリーFTPパッシブモード」
パッシブモードFTPを利用するときはチェックを入れます。不明なときはネットワーク管理者にお問い合わせください。

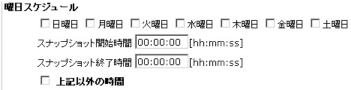
以降のFTPサーバ2に関する項目は、バックアップFTPサーバの情報です。バックアップFTPサーバ設定しないときはスキップしてください。

画面の下部にある［保存］をクリックし、システムが再起動するまでお待ちください。

左側の「アプリケーション」をクリックします。



以下のとおりに「曜日スケジュール」を設定します。



「日曜日 」
カメラのスナップショットの撮り始めと撮り終わりの曜日を選択してください。

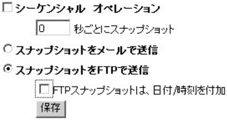
「スナップショット開始時間 」
スナップショット撮影の開始時間を設定します。例:「09:30:00」

「スナップショット終了時間 」
スナップショット撮影の終了時間を設定します。例:「18:45:00」

「上記以外の時間 」
上記に設定された時刻以外は常にスナップショットを撮るように設定します。

画面の下部で「シーケンシャル オペレーション」にチェックを入れて「 (...) 秒ごとにスナップショット」で更新間隔を設定します。※ 更新間隔を短めに設定してください。

「スナップショットをFTPで送信」を選択し「FTPスナップショットは、日付け／時刻を付加」チェックをはずします。「保存」をクリックします。



画像が指定したフォルダに正しくアップロードされていることを確認します。画像は「video.jpg」の名前でアップロードされます。あらかじめ、今回FTP経由でアップロードした画像を表示するホームページをご用意ください。

● FTPサービスが利用できないときは

自動更新を行うホームページを使用することで、本製品から定期的に最新画像を取得し表示させることが可能です。

自動更新ホームページをご用意ください。画像のアドレス（URL）はhttp://(本製品のIPアドレス)/cgi-bin/video.jpgとなります。次に、ご使用ネットワークの帯域幅で最適な映像が表示されるよう、更新間隔を設定してください。閲覧者が非常に多い状態で頻繁に更新を行うと、本製品への負荷が増大し映像表示が遅くなることがあります。

3 セキュリティアプリケーションの設定

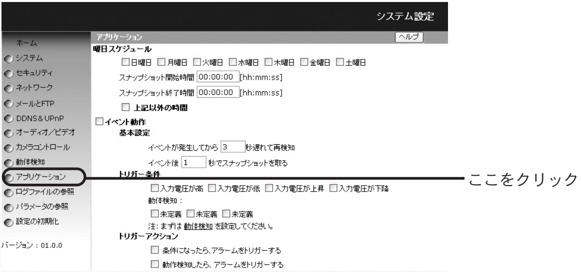
「アプリケーション」設定ページ上のオプションを組み合わせることで多数の便利なアプリケーションを実行することができます。トリガーソースとしては、接続した外部機器からの検出、および「動体検知」があります。さらにイベントに応答するアクションとして、インターネット経由でスナップショットのアップロードと、アラームのトリガーを選択できます。スナップショットのアップロードは、ニーズに合わせてメールまたはFTPにての送信を選べられます。どちらの方法も、「ネットワーク」設定ページから設定をおこないます。

A.スケジュールの設定
第一のステップとしては、セキュリティアプリケーションのスケジュールを設定します。

3-1. トップページで「システム設定」をクリックします。



3-2. 左側のメニューから「アプリケーション」をクリックします。



3-3.「曜日スケジュール」で曜日を選択し「スナップショット開始時間」および「スナップショット終了時間」指定します。

3-4.「イベント動作」にチェックを入れます。

3-5.「イベントが発生してから「…」秒遅れて再検知」で遅延時間をします。これで、最初のイベント発生後に誤報アラームが止まらなくなる現象を回避することができます。

3-6.「イベント後「…」秒でスナップショットを取る」で遅延時間をします。これで、移動する物体の方向をキャプチャすることだできます。

B. 動体検知したらスナップショットを送信する

外部センサーを使用しないときは、本製品の動体検知機能を使って被写体の動きをモニターできます。セキュリティチェック用にスナップショットをメールに添付して送信することが可能です。

3-7. 左側のメニューから「動体検知」をクリックします。

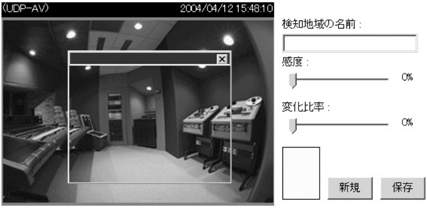


3-8.「動体検知を有効」にチェックを入れます。

3-9「新規」をクリックし、動体検知用のウィンドウを表示します。

3-10.「地域の名前」にウィンドウの名前を入力します。

3-11.検知地域ウィンドウのタイトルバーをドラッグしてウィンドウを移動したり、ウィンドウの端をドラッグしてリサイズしたりすることができます。
※検知ウィンドウを3つまで追加できます。

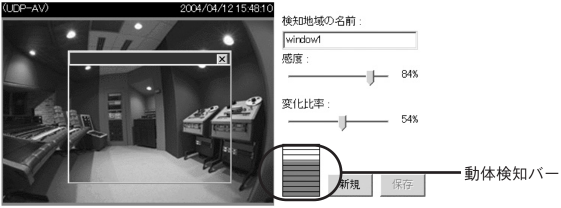


3-12.「感度」で動体検出の感度を設定します。感度が高いほど動きが検出しやすくなります。

3-13.「変化比率」を設定します。変化比率が高くなるほど、移動する小さな物体が検出しにくくなります。

3-14. ［保存］をクリックします。

左下に動体検知の状態を表すバーが表示されます。 緑表示は、ウィンドウ内の動作が設定されているレベル以下であることを示し、赤表示はレベル以上であることを意味します。

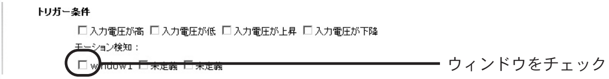


●注意

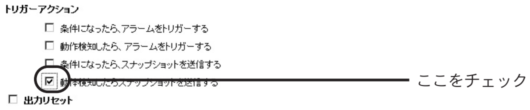
> *変化比率は、低めの設定を推奨します。高感度と低変化比率の設定で、動体検出はより簡単におこなわれます。低変化比率では、選択された検出ウィンドウの全体をカバーする必要がなく、ウィンドウ内の小さな動きでも検出機能を動作させます。*

3-15. 左側のメニューから「アプリケーション」をクリックし、アプリケーション設定画面に戻ります。

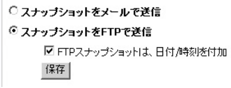
3-16. 「トリガー条件」では、ステップ4で設定した検知ウィンドウ名にチェックを入れます。



3-17.「トリガーアクション」では、「動体検知したら、スナップショットを送信する」にチェックを入れます。



3-18. ニーズに合わせて「スナップショットをメールで送信」、あるいは「スナップショットをFTPで送信」を選択します。



3-19.［保存］をクリックして設定を保存します。

無線LANで使おう

本製品の無線LAN設定と無線LANセキュリティの設定について説明します。
無線LANの電波は誰でも受信できるため、無線LANセキュリティ設定をすることをお勧めします。

1. 無線LAN設定と無線LANセキュリティ設定

設定を始める前に、お使いの無線LANを調べてください。
「WLAN設定」は、接続先の無線LAN通信機器と同じ設定をします。

■お使いの無線LAN

※接続先の無線LAN機器のマニュアルを参照してください。

・無線LAN設定

	お客様記入欄
接続設定	
SSID	

・無線LANセキュリティ設定

	お客様記入欄
暗号化の有効／無効	有効　　または　　無効
暗号化（WEP/WPA）	

※本製品はWEP暗号化方式のみ設定できます。
※「データ暗号化」チェックボックスのチェックを入れると、暗号化が有効になります。

・暗号化設定内容

	お客様記入欄
認証モード	自動　または　オープンキー　または　共有キー
キーの長さ	64bit　　または　　128bit
キーフォーマット	16 進数　　または　　文字列
デフォルトキー※	

※デフォルトキーには「WEP暗号キー」を設定します。

■設定例

設定例を次のようにします。
実際の設定は、お使いの無線LANにあわせてください。

SSID	planex
無線モード	インフラストラクチャ
データ暗号化	有効
認証モード	共有キー
キーの長さ	64bit
キーフォーマット	6 進数
デフォルトキー	abcdef1239

2. 無線LAN設定の表示

2-1. 設定用コンピュータのIPアドレスを設定します。
※IPアドレスの設定については、「5章　設定用コンピュータの準備」（38ページ）を参照してください。

2-2. 本製品と設定用コンピュータをLANケーブル（クロスタイプ）で接続します。

2-3. カメラの映像を表示します。
表示方法については、「第7章　カメラの映像を表示する」（62ページ）を参照してください。

2-4. カメラの映像画面（WEBブラウザの画面）の「システム設定」をクリックします。

「システム設定」が表示されます。

2-5. 「ネットワーク」をクリックします。
「ネットワーク」設定が表示されます。

「ネットワーク」の「WLAN設定」で無線LAN設定と無線LANセキュリティ設定をします。

3. 設定の保存と適用

無線LAN設定、無線LANセキュリティ設定をしたら、次の手順で設定を保存し適用します。

3-1.［保存］をクリックします。
　　本製品に設定が保存されます。

3-2. WEBブラウザを終了します。

3-3. 本製品とコンピュータからLANケーブルを取り外します。

3-4. 本製品を再起動します。
　　※本製品リセットボタンを1秒押します。

本製品の「WLAN設定」が有効になり、無線LANネットワークに接続します。

●ワンポイント

- 接続先の無線LAN通信端末（アクセスポイント）にDHCPサーバ機能があるときは
「ネットワーク」の「次回起動時にIPアドレスをリセット」のチェックをオンにすると、本製品を再起動したときにIPアドレスを自動的に取得・変更します。

- 接続先の無線LAN通信端末（アクセスポイント）にDHCPサーバ機能がないときは
「ネットワーク」の「次回起動時にIPアドレスをリセット」のチェックをオンにして本製品を再起動しても、IPアドレスは変更されません。

- 設定を間違えてしまったときは
設定を間違えた状態で本製品を再起動すると、ネットワークに接続できなくなります。そのときは、一度、本製品を初期化して、もう一度設定をしてください。

付録C

ネットワーク&コンピュータあれこれ

1. TCP/IPのインストール

Q：TCP/IPのインストール方法を教えてください。

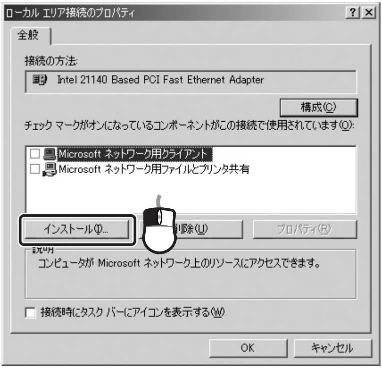
A：Windows 2000/Me/98SEで「ローカルエリア接続のプロパティ」※にTCP/IPがないときは、次の手順でTCP/IPをインストールします。

※Windows Me/98SEのときは「ネットワーク」になります。

■Windows 2000編

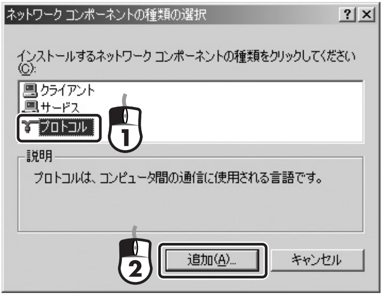
※「ローカルエリア接続のプロパティ」の表示方法については、「第5章 設定用コンピュータの準備」（38ページ）を参照してください。

1-1.「全般」タブの[インストール]をクリックします。



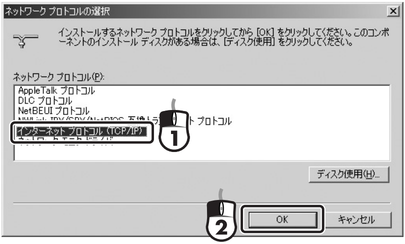
「ネットワークコンポーネントの種類の選択」が表示されます。

1-2.「プロトコル」を選択し、[追加]をクリックします。



「ネットワークプロトコルの選択」が表示されます。

1-3.「ネットワークプロトコル」から「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、[OK]をクリックします。



「ローカルエリア接続のプロパティ」が表示されます。



「チェックマークがオンになっているコンポーネントがこの接続で使用されています」欄に「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が追加されたことを確認します。

■Windows Me/98SE編

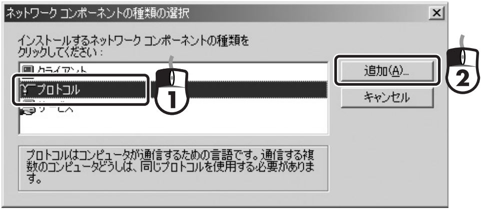
※「ネットワーク」の表示方法については、「第5章 設定用コンピュータの準備」（36ページ）を参照してください。

1-4.「ネットワークの設定」タブの［追加］をクリックします。



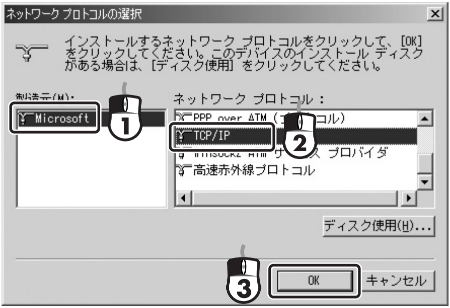
「ネットワークコンポーネントの選択」が表示されます。

1-5.「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

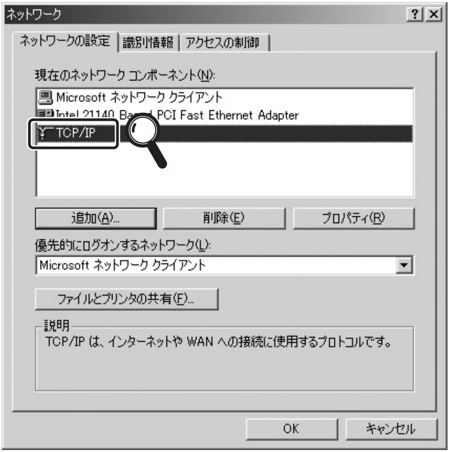


「ネットワークプロトコルの選択」が表示されます。

1-6.「製造元」から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」から「TCP/IP」を選択して、［OK］をクリックします。



「ネットワーク」が表示されます。



「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP」が追加されたことを確認します。

2. カメラに接続できない

Q：CS-WMV01Gに接続できません。

A：以下を確認してください。

1. 管理者権限（root）パスワードを設定していますか？
   本製品の初期設定では管理者権限（root）パスワードは設定されていません。パスワードを忘れてしまったときは、本製品の管理者にパスワードを問い合わせてください。

2. IPアドレスはコンピュータと同じネットワークグループですか？
   ネットワークのグループが同じIPアドレスでないと通信はできません。コンピュータのIPアドレスが「192.168.1.101」、サブネットマスクが「255.255.255.0」のとき、本製品に設定するIPアドレスは、「192.168.1.○○○」となります。
   （○○○は101を除く1～254の任意の数字です）

また、接続形式によって以下の点も確認してください。

■有線LANでコンピュータに直接接続している

LANケーブルにはクロスタイプを使用していますか？
本製品をコンピュータに直接接続するときは、LANケーブルはクロスタイプを使用してください。

■有線LANでブロードバンドルータ、HUBまたはスイッチに接続している

1. 正しいLANケーブルを使用していますか？
   本製品をブロードバンドルータ、HUBまたはスイッチに接続

するときは、各機器のマニュアルを参照して適切なLANケーブルを使用してください。本製品はコンピュータと同じ扱いになります。

2. IPアドレスは自動・手動取得のどちらですか？
ルータまたはHUBにDHCPルータ機能があるときは、本製品はIPアドレスを自動取得・変更します。
ルータ上から本製品のIPアドレスを確認してください。ルータの操作方法については、ルータのマニュアルを参照してください。

IPアドレスが固定設定のときは
ネットワークのグループが同じIPアドレスでないと通信はできません。
コンピュータのIPアドレスが「192.168.1.101」、サブネットマスクが「255.255.255.0」のとき、本製品に設定するIPアドレスは、「192.168.1.○○○」となります。
（○○○は101を除く1～254の任意の数字です）

誤ったIPアドレスを設定して本製品に接続できなくなったときは、本製品を一度初期化し、もう一度設定を行います。

■無線LANで接続している

1. 無線LAN設定を行った後で、本製品の電源を一度オフにしていますか？
無線LAN設定を有効にするには、設定後に一度本製品の電源をオフ（ACアダプタを取り外した状態）にし、再度電源をオン（ACアダプタを接続した状態）にします。

2. 設定内容はあっていますか？
- SSID（無線LANネットワークグループ名）
- 無線通信モード
- 暗号化設定

無線LAN機器同士で設定内容が同じときだけ通信ができます。
※本製品で設定できる暗号方式はWEP暗号方式のみになります。

3. IPアドレスは自動・手動取得のどちらですか？
ネットワーク上にDHCPサーバがあるときは、本製品はIPアドレスを自動取得・変更します。
DHCPサーバ上から本製品のIPアドレスを確認してください。
DHCPサーバの操作方法については、DHCPサーバのマニュアルを参照してください。

4. 障害物はないですか？
無線LAN範囲はお使いの環境で変化します。通信する機器との間に障害物がないことを確認してください。

5. 他の規格の無線機器がありませんか？
無線LANとBluetooth™の電波の規格は同じため、近くにBluetooth機器があるときなど通信できないことがあります。
これ以外にも電波を使用する機器が影響することもあるため、他に無線電波を使用する機器がないことを確認してください。

IPアドレスが固定設定のときは

ネットワークのグループが同じIPアドレスでないと通信はできません。
コンピュータのIPアドレスが「192.168.1.101」、サブネット

マスクが「255.255.255.0」のとき、本製品に設定するIPアドレスは、「192.168.1.○○○」となります。
（○○○は101を除く1～254の任意の数字です）

誤った設定によって本製品に接続できなくなったときは、本製品を一度初期化し、もう一度設定をしてください。

3. 通信速度が遅い

Q：無線LAN通信で接続していて、映像が遅く表示されます。

A：無線LAN通信は通信環境の影響によって通信速度が変わることがあります。以下の点を確認してください。

1. 無線LAN機器の設置場所は良好ですか?
   無線通信する機器の間に壁や家具などの障害物があるとき、電波が遮られパフォーマンスが低下するときがあります。出来るだけ障害物の無い環境で使用したほうが、良好なパフォーマンスが得られやすいと言えます。

2. 通信距離を確認してください。
   無線LANで通信を行う接続先機器との距離によって、通信速度が変化するときがあります。

3. 家庭電化製品のノイズが影響を与えるときがあります。
   例えば、家庭で使われている電子レンジ、Bluetooth機器は、無線LAN（IEEE802.11b/g規格）と同じ、2.4GHz帯域の電磁波を使用しており、思わぬ影響を与えるときがあります。

4. 無線LANの端末機が複数台ありませんか?
ひとつのアクセスポイントに、無線LANで通信するコンピュータが複数台集中したとき、それぞれの通信速度は遅くなってしまいます。

付録D

トラブルシューティング

1. カメラの設定

Q：設定画面を表示できません。

A：WEBブラウザの設定を確認してください。

- プロキシサーバを設定しているときは、プロキシサーバの設定を解除してください。
- セキュリティを設定しているときは、「信頼済みサイト」に本製品のIPアドレスを登録してください。本製品の初期設定のIPアドレスは、「192.168.1.100」です。

Q：「ホーム」を選択したのにカメラの向きが少しずれてしまう

A：手でカメラの向きを変更すると軸がずれてしまい、「ホーム」を選択しても中央に戻らなくなります。設定画面の「設定の初期化」から「キャリブレート」をクリックするか、一度電源を入れ直すと元に戻すことができます。

Q：タイムスタンプ上の時刻がコンピュータ上の時刻表示と違います。

A：タイムスタンプ上の時刻は本製品のシステム時間を元に表示されます。コンピュータと同期させることや、ネットワーク上のNTPサーバに接続して同期させることもできます。「システム設定」の「システム」の中で最適な更新方法を選択してください。

Q：パスワードを忘れてしまったらどうしたらよいでしょうか？

A：カメラにアクセスするユーザの方は、本製品の管理者にパスワードを問い合わせてください。
管理者権限（root）のパスワードを忘れたときは、設定を初期化してください。「第2章3.本体側面」（20ページ）を参照し、本製品の初期化を行ってください。

Q：動体検出ウィンドウを開いているのですがうまく動作しません。

A：動体検出ウィンドウを設定／保存しているときは、「動体検知を有効」チェックボックスのチェックがオンになっている事を確認してください。この機能が有効となっている状態で「感度」および「変化比率」の調整を行ってください。

2. カメラの映像の閲覧

Q：アクセスすると警告が表示されてカメラの映像が表示されません。

A：ブラウザのセキュリティ設定で「未署名のActiveXコントロールのダウンロード」を有効にしてください。

Q：再生画像が遅くコマ送りのようになってしまいます。

A：大勢のユーザがアクセスするときや、回線の帯域幅が狭い（速度が遅い）ときは、連続したデータをスムーズに送信することができなくなります。「オーディオ/ビデオ」の設定で「フレームレート」を下げるか、「ビデオ品質調整」で「固定品質」を「標準」などに設定してください。

Q：画像が鮮明に映りません。

A：本製品を適切な位置に設置した後、レンズを回して焦点を調整してください。また、「オーディオ/ビデオ」の「イメージ設定」にて、画像設定およびホワイトバランスを微調整することで最適な画質にすることができます。

Q：画像が定期的に更新されないのですが?

A：ウイルス対策ソフトやインターネットセキュリティソフトを使用していませんか？
ウイルス対策ソフトやインターネットセキュリティソフトによっては、WEB経由で受信した内容をフィルタリングする機能を持つものがあります。同機能実行中はデータの検査に時間がかかるため、本製品のようなストリーミングアプリケーションに影響を及ぼすことがあります。ただし、同現象に影響されるのは本製品のHTTPモードのみとなります。ご使用ネットワーク上でHTTPモードのみ許可されているときは、ご使用ウイルス対策ソフトのWEBフィルタリング機能を一時的に無効にしてください。ただし同機能が無効となっている間は悪意のあるネットワーク上の活動の影響を受ける危険性があります。

Q：映像は表示されるのですが音が何も聞こえてきません。

A：画像の上に"V_ONLY"と表示されるときは、「クライアント設定」で「音声を使用しない」のチェックを外してください。
"V"と表示されているときは、ご利用のコンピュータのサウンドカードが正しくインストールされていない可能性が考えられます。
"AV"と表示されているときは、本製品の音源（内部・外部マイク）をご確認ください。

Q：認証を受けたあともネットワークカメラからの動画映像が見られません。

A：当現象にはいくつかの原因が考えられます。

1. 本製品のインストールが済んだばかりの状態で動画が確認できないときは、Active LEDが点滅しているか、またレンズキャップが外されているかどうかご確認ください。Active LEDが消えているときは、Installation Wizardのインストールを再度行ってください。

2. 本製品が正常にインストールされており、Internet Explorerで本製品に対し初めてアクセスしているときは、Internet Explorerのセキュリティレベルを調整してプラグインのインストールが行えるようにしてください。

3. 上記調整を行っても状況が改善せず、かつ画像ウィンドウの上に"connecting"メッセージが表示されるときは、ネットワーク上のトラフィックが混雑していることが考えられます。

3. カメラ画像の公開

Q：ブロードバンドルータ環境で利用しているが、LAN上のコンピュータからはアクセスできるがインターネットからカメラにアクセスできません。

A：「ネットワーク」画面のIPアドレスの設定でデフォルトゲートウェイにブロードバンドルータのLAN側IPアドレスが設定されているか確認してください。さらに、ブロードバンドルータのポート転送(ローカルサーバ設定、静的マスカレード設定等)の設定が行われているか確認してください。マニュアル

「第11章2.ルータを介してインターネット上に公開したいとき」も参考にしてください。

Q：ネットワークカメラを極力、非公開なかたちで使用することは可能ですか?

A：ユーザ認証は、本製品を不正アクセスから守ります。またHTTPポートを非公開の暗号に変更することも可能です。「デモ用のアカウント」を設定することによりゲストユーザと正規ユーザの区別が容易になり、ゲストユーザのアクセスはいつでも禁止することが可能です。またシステムログを確認して、異常な動作があったときはその発信源を追跡することもできます。ブロードバンドルータ環境のときは、ルータ側でポート転送の設定を行わなければ、インターネットから閲覧されることはありません。

4. その他

Q：天井に設置することは可能ですか?

A：可能です。「オーディオ/ビデオ」でフリップおよびミラーの設定をおこなうことで、上下逆さまの状態で設置したときの映像を補正することができます。

Q：カメラから動画データ以外のパケットが送信されます。

A：「UPnP」機能が有効になっていることが原因です。「UPnP」機能を有効すると、UPnPを利用するためのパケットがカメラから送信されます。UPnP機能を使わないときは、「システム設定」の「DDNS & UPnP」画面で「Universal PnP」のチェックをオフにしてください。

Q：プラグインは何のために使用するのですか？

A：本製品の提供するプラグインは、Internet Explorer上で動画および音声を利用するために使用します。ご利用のシステム上でプラグインのインストールが禁止されているときは、ご使用WEBブラウザのセキュリティレベルを下げる必要があります。

Q：ネットワークカメラの動画速度はどのくらいですか？

A：MPEG4コーデックエンジンは本製品内部で30フレーム/秒の処理が実行可能です。ネットワークに接続して使用するときは、以下の要因などで10～20フレームになります。

- ネットワークスループット
- 本製品上で使用可能な帯域幅
- ユーザ数
- ビュー内で複雑な物体または動きがある場合
- ご使用コンピュータの処理能力

Q：ネットワークカメラの映像を同時に閲覧できるユーザの最大数は何人ですか？

A：スムーズに画像を閲覧・音声の鑑賞をおこなうためには、最大10名までの本製品への接続を推奨します。より多数のユーザに対しアクセスを許可するときは、別途WEB サーバを構築し、本製品への接続をWEBサーバのみに限定して、ユーザはWEBサーバが取り込んだ画像と音声を鑑賞する方式を推奨します。サーバの構築等は弊社サポートの対象外です。

仕様

カメラ部	映像素子	1/4インチカラーCCD
	解像度	352×240、176×120、704×480ピクセル
	画素数	27万画素
	フレームレート	1、2、3、5、10、15、20、25、30フレーム/秒
	画像圧縮方式	MPEG4
	ビットレート	64、128、256、384、512、768、1000、1200 kbps
	最低被写体照度	1 Lux（F2.0）
	撮影レンズ	4.3mm F2.0
	電子シャッター	1/60～1/15,000秒
	撮影距離	40cm～∞
	パン（左右）	角度270°（±135°）、回転速度10°～50°/秒
	チルト（上下）	角度135°（+90°～-45°）、回転速度7°～25°/秒
	ホワイトバランス	自動
	AE機能	自動
	ゲインコントロール	自動
	画質調整	輝度（+5～-5）、コントラスト（+5～-5）、彩度（+5～-5）、色調（+5～-5）
	その他	上下反転（フリップ）、左右反転（ミラー）、白黒モード、動体検知
マイク部	音声入力	無指向性マイク内蔵
	サンプリングレート	24Kbps、8KHz
	周波数帯域	50～16,000Hz
	S/N比	58dB以上
インターフェイス	サポート規格	IEEE802.3/IEEE802.3u準拠（10BASE-T/100BASE-TX）
	ポート数	RJ-45×1ポート
	通信速度	10BASE-T/100BASE-TX自動認識
	MIC入力	モノラルミニジャック（Φ3.5mm）、2V（RMS）
	A/V出力	ミニジャック（Φ3.5mm）、オーディオ出力 900mv（RMS）、ビデオ出力 75Ω/Vp-p
	セキュリティ	ユーザー名、パスワード
	対応プロトコル	UPnP、TCP/IP、HTTP、SMTP、FTP、NTP、DNS、DHCP、DDNS
	最大ユーザ数	10ユーザ
	対応ダイナミックDNS※	DynDNS.org、DynamicDo!、MyDNS
無線インターフェース	規格	IEEE802.11g、IEEE802.11b
	伝送速度 11g	6Mbps、9Mbps、12Mbps、18Mbps、24Mbps、36Mbps、48Mbps、54Mbps
	伝送速度 11b	1Mbps、2Mbps、5.5Mbps、11Mbps
	セキュリティ	WEP（64bit/128bit）
	アンテナ方式	ダイバシティアンテナ
画像表示/環境設定	対応OS	Windows XP/2000/Me/98SE
	WEBブラウザ	Internet Explorer 5.5以上
専用ユーティリティ動作環境	対応OS	Windows XP/2000/Me/98SE（Windows XP/2000推奨）
	CPU	Pentium II 350MHz以上（Pentium III 1GHz以上推奨）
	メモリ	128MB（256MB推奨）
	VGAカード解像度	800 x 600以上
LED		Power/Mic（電源/マイク）、Activity（ネットワーク）
ACアダプタ		入力：AC100～240V、50/60Hz、0.4A 出力：DC12V、1.5A
電源電圧		DC12V
消費電力		最大9W
EMI規格		CE、FCC Class B
動作温度／動作湿度		0～40℃／35～85％（結露しないこと）
外形寸法／重量		105（W）x 110（H）x 105（D）mm（アンテナ部含まず）／390g（アンテナ部含む）
保証期間		1年

※最新対応サービスは弊社ホームページをご覧ください。

ユーザ登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザ登録をお願いしております。ユーザ登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザサポートをお受けになるにはお客様のユーザ登録が必要となります。ユーザ登録の際は、ホームページ掲載の「個人情報保護方針について」をご確認後、ユーザ登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザ登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。

http://www.planex.co.jp/user/

弊社へのお問い合わせ

■弊社製品の追加購入
弊社製品のご購入は、販売店様またはPLANEX DIRECTまで。
ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。
〈PLANEX DIRECT〉
http://direct.planex.co.jp/

■製品に関するお問い合わせ
製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。
ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。
〈ご質問/お見積もりフォーム〉
http://www.planex.co.jp/lan.shtml

■技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ
製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。
〈お問い合わせフォーム〉
http://www.planex.co.jp/support/techform/
受付：24時間
〈電話〉
フリーダイヤル：0120-415977
受付：月～金曜日、10～12時、13～17時
＊祝祭日および弊社指定の休業日を除く
〈FAX〉
ファクス番号：03-5766-1615
受付：24時間

◇お問い合わせ前のお願い
サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。
お客様のご協力お願いいたします。
・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名（Windows XP/Meなど）
・ご利用のネットワークの環境（回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など）
・ご質問内容（現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されているときはその詳細を書きとめてください）

■その他
その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。
プラネックスコミュニケーションズ
http://www.planex.co.jp/

質問表

技術的なご質問は、この2ページをプリントアウトして必要事項をご記入の上、
下記FAX番号へお送りください。

プラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行
FAX：03-5766-1615

送信日：　　　年　　　月　　　日

会社名		部署名	
名前			
電　話		FAX	
E-MAIL			

製品名	有線／無線LAN対応ネットワークカメラ
型番 Product	**CS-WMV01G**
製造番号 Serial No.	

① ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

② OS

OS		バージョン

③ 質問内容

プラネックスコミュニケーションズ株式会社